

心理臨床の

広場

特集

- ① 様々な家族のカタチ
- ② コミュニケーションツールと面接

対談

ロバート キャンベル×
松高由佳

WORLD MAP

「自己理解」を真剣な作業として認識
するために、本来の国際規格MBTI®を

Vol.17 No.1 Apr. 2024

32



一般社団法人

日本心理臨床学会



松高 こういう対談は初めてで、とても緊張しています。

キャンベル わかります(笑)。緊張しない人はいませんか。

松高 私は今、県立広島大学というところで学生相談の仕事をしています。実際の相談もたくさん受けていますし、その中にLGBTQの方もときどきやって来られます。ただ、カウンセラーでも心理の専門職でも、性に関して正しい知識を学んだり、どういふふうに対応したらいいかといった教育を受けてきてない人が多いんですね。私自身は特に多様なセクシュアリティについて関心があって、いろいろ調べたり研究したりしながら支援や現場に関わっています。LGBTQもそうですが、最近になって「SOGI (Sexual Orientation and Gender Identity)」という言葉がようやくポピュラーになってきたと感

じています。

キャンベル 確かに市民権を少しずつ得ていますよね。

松高 認知度が上がってきてはいるんですが、その一方で、当事者自身のしんどさというか、なかなか自分を外に表せないといった問題も今なお大きいと感じています。そういう状況について、キャンベルさんほどのように感じておられますか？

キャンベル 私自身、身体的に目立つということもありますが、メディアで活動しているのですが、私の名前と顔が一致する人からすれ違ふときに軽く会釈をされることがあるんですね。ただ、東京の人はあんまり驚かない人が多いですけど(笑)。僕の日常の中には、そういうことが普通にあって、それと僕がカミングアウトしているということが合わさって、面識がない人から声をかけられたり、相談というところと大きですが、自分の

巻頭対談

Robert Campbell

ロバート キャンベル ×

Yuka Matsumoto

松高由佳

経験を私に話してこられる方がいます。そうした体験から、あくまで皮膚感覚としてですが、セクシュアリティのことを考えている人たちが増えている印象があります。

今『虹クロ』というNHKのテレビ番組に出演していて、視聴者の方からフィードバックをいただくことがあります。当事者の人たちだけではなく、その人たちと繋がっている人——つまり「ほとんどの人」ということになるわけですが、そういう人たちが実はセクシュアリティに限った話ではなく、私が発した言葉や番組内で話し合われたことが、家族や社会の中で自分が感じている生きづらさに、そのままパラレルに通じるという声を聞くことがとても多いです。

松高 ああ、そうなんです。

キャンベル SOGIやLGBTのことに限定して言うと、もちろん当事者たちにとっては非常に深刻なことです。なぜなら、自分の健康に直結することでもあるわけですから。ただ、そこにはいろいろなグラデーションがあって、それは色が薄くなつていくイメージではなく、別の意味、別の意義として、自分たちのごとや今この生きている社会の中がど



うなのか、自分はその中で何者になるうとしていいのか。特に若い人たちが、そうしたことを一つの起爆剤になるようなレベルで考えてくれているように感じます。

日本でもある程度は取り組んでいると思いますが、ヨーロッパやアメリカでは当事者の意識に関するアンケート調査を徹底的にやるんですね。それはLGBTがどこに何人いるか、に限らず、その人の職業であったり、どういう生き方をしているのかを問うわけです。例えば、法律や自治体の仕組みのような大きな枠組みを改善していくためには、そういうデータの積み上げが不可欠なんです。今申し上げていることが、少し特殊な属性を持った一人の市民として

の印象ですね。著しい変わり目というか、私たちは今、分岐点という堀の上にいるような感じがしますね。

自分の「身近な層」にある問題

松高 そういう感覚をキャンベルさんはおそらく何年も前から感じられていたんですね。特にここ最近は、そういうふうに関示というか、自分の言葉で自分のことを語る方が増えた感じでしょうか？

キャンベル 私もそうですけれども、自分のあり方を言語化したり、あるいは可視化されたりすると安心できるとすよね。特に日本社会においては、対立を回避することや、できるだけ否定するような場をつくらな

い力が、日本語という言語そのものや、教育制度をはじめさまざまな仕組みの中で働いているわけです。良く言えば、相手のことを慮^{おもんばか}って、相手が不愉快にならないように、あるいは不愉快というよりも戸惑わないうように話をする。そういうことを常に意識しながら生きていると思うんですね。

そう考えると、相手がどういう立場にあるのかわからない中で、特にセクシュアリティという「違和感」を生み出しかねないトピックに関しては、若い人も、あらゆる世代の人でも、まだ公言することは難しい社会だと思えます。また、もう一つ感じることには、いわゆる当事者の方たちには、バイセクシュアルの人、ゲイ、レズビアンの人、トランスジェンダーの人というように、ものすごくいろんな幅があるんですね。それぞれさまざまなニーズというか、社会的な課題が異なる部分であると思うんです。このことは前からわかっていたけれども、具体的に差別をされることによつて、あるいは社会の中で与えられて当たり前のものについて、どれだけ妥協しながらそうした人々が生きているかということが、とてもよく見えてきたような気がし

ます。例えば、長年連れ添ったパートナーが入院をしたときに身元保証人にもなれず、場合によっては病室にも行けず、生死に関わる重大な医療判断の場に参画することができない。それは今この瞬間にも起きています。

そういうことが、一人や二人ではなくて、波紋のように広がって可視化されてきています。先ほど申し上げたように、まだデータとしては十分ではないかもしれませんが、そうした問題について、何が必要なのか、それはお金なのか、法律の改正なのか、もしくは人々の心の問題として捉えるべきなのか。最初の話に戻しますと、やっぱり一つ一つの事柄に言葉が連結して、繋ぎ合わさって、そのことによって人々の心というのが開く。今はそういう動きや作用が伝わっている真つ只中という感じがしますね。

松高 思いが表現されて、それが人に伝わって共有されていく。確かに当事者の方がどういうことに困っているとか、差別をされたとか、「これはおかしい」とか、本当にそういう声をどんどん上げるようになってきて、それで実際が変わってきたところもあると思いますし、そ

の声を周りの人が受け取って「じゃあ、こういうことに繋がっていい」とか、いろんな動きに繋がっていったりしています。私たちも、例えば、心理職にどういう教育訓練をするか、セクシュアリティに関するトピックをどう伝えていけばいいのか、そういうことを常に考えているわけなんです。

ただ、先ほどまさに「心の問題」と言われましたが、声を上げられるようになった一方で、そのことでSNSの世界で叩かれたり、考えが折り合わないと思う人が、ヘイト的な発言をしたりすることがあると思うんです。論争までは行かないにして

も、そこでまた傷つきがあったり…。
キャンベル 今、話をお聞きして思いつくのが『虹クロ』のことで

す。この番組にはリモートで参加される方もいますが、さまざまな地方から実際にスタジオまで足を運んで、本当に皆さんすごく勇気を振り絞って出てくださっているんですね。何かをそこで伝えたい、悩みを聞いてほしいという若い人たちが、毎回、私たちの目の前に現れるわけです。当然、一人一人が置かれている状況や環境は違うので、あまり公約数的には、これがすべての方に通じているとは言えないのですが、一つ感じることは、自分の周りにいる人に自分

の話をしてもいいけれど、気を遣われることが嫌だという人が多いんですね。

そういう言葉が重なっていくうちに、これは深いなというふうに思いました。何歳であろうと、自分のことをカミングアウトすることはとてもリスキーなことです。今の若い人たちの多くは、わりと周囲に知ってくれている友だちがいたり、家族がセーフティネットになっていたりするんです。でも、それでもなぜ言わないかという、言うことによって周りの人たちに気を遣わせることになる。昔から親を悲しませたくないから言わないということがありました。これが本当で、母の顔とか父の顔を想像すると怖気づいてしまいます。大好きなお祖母さんがすごく悲しむ、と思えば、お祖母さんを失望させたくないで、沈黙します。

この前会った子もそうでしたけれども、お祖母さんから振り袖の着物を買ってあげるよと言われ、いや、それは着たくないけどそう言い出せない。それを言うことによってお母さんやお祖母さんを悲しませたくないということがありました。

あと、今の若い人たちは承認欲求がとても高くて、「いいね」の数や



フォロワー数、SNSでどれぐらい自分が人と繋がっているのかが大事ということがありますよね。その中で、もし自分が今まで投稿してきたことと違うことを言ってしまったら、それまでの全部が崩れて周りの人たちが引いてしまうのではないか。引かないにしても違う目で自分を見るのではないか。これってやっぱり日本の言い方かもしれないけれども、気を「遣わせて」しまう。どうやって人に気を遣わせないかの方が大事なんです。

それに対して「そんなこと心配しなくてもいいよ」と言うのは簡単ですけれども、私はその気持ちが変わる気がするんですね。自分が差別を受けるのか、アパートが借りられないとか、ローンが組めないとか、好きな人と一緒に組めないということ、それは現実としては大変なんだけれども、この「気を遣わせてしまう」ことも日常的な悩みだということとです。

松高 具体的な、現実的な問題もあるにはあるけど、もう一つの層というか、人間関係や関係性が変わってしまうことの方が大きいわけですね。**キャンベル** 例えば、会社に入ると上司がどういいう人なのかということ



はすごく大きなことですね。部長や専務、社長クラスになると、インクルーシブな人が増えて、企業が大きくなればなるほどそういう取り組みをしたりするんですけれども、直属の管理者がどうなのかによって自分の日常がもう一八〇度変わるわけです。

一方で、先ほど申し上げたようなSNSもそうですし、ゲームもソーシャルゲームが基本になって、不特定多数の人との緩やかな関わりの中で自己表現をしたり、自分を確立していくということがあります。一つの間ではなく複数の場で、それぞれその都度名前を変えたりすることが普通にあるわけですね。そうすると、特に若い人たちの自我の同一性というものが、どう折り合っていくのか。どういいうふうにして整合性が保たれているのかが問題になるわけです。

僕もTikTokをやりますけれども、YouTubeをやったりTikTokをやっている人たちが今はもう普通にいっぱいいるわけですね。で、例えば三〇秒や一分の短い動画であっても、そこには間違いなく自分の、その時点で表したい自己というものが投影されているわけです。そうすると、今どういうセクシュアリティが自分の性質であるのか、そしてもしそれを抑制している自分がいたとして、その抑制を取り払ったときに何が起きるのか。それまでつくってきた自分との乖離というものが、できるかできないのかというところが非常に大事な気がします。ちなみに私の周りには、結局最後は親の顔とか上司の顔ではなく、フォロワーたちがどう思うかだという人がいたりします。

ただ、セクシュアリティについては、これは決して軽いものではない

し、ある年齢になって、ある人生のステージになって、自覚的になってから誰であつても悩むものだと思うんです。それを自分から公言をすることがどうかというときに、五年前や一〇年前とはやはりもうすでに違う状況があつて、その乗り越えるべきハードルが違っている。むしろハードルがどうと言うよりも、そのハードルを越える場所が違う感じがしているんですね。

松高 そのハードルを越える場所の一つに、フォロワーの反応があつたりするわけですか？

キャンベル 今はもうLGBTをキヤラ化することが求められるようになっていきます。それによって登録者数やビュー数が積み上がっていく。つまり承認されて成功に繋がっていくんですね。それはそれでいいと思うのですが、でも、いつの間にか、そのグループの中で自分がレズビア

ンの代表みたいになって、何かが起きたときにすべて自分が対応しないといけないとか、あるいはレズビアンならではの感性を求められるとか、こういうことがすごくあるんですね。**松高** 何かこう、役割を負わされるというか。

キャンベル 金水敏さんという著名な言語学者が日本語には「役割語」があるとおっしゃっているんですね。例えば「博士語」や「田舎のおかみさん語」みたいなものがあると。役割で言うと、「女性ならではの感覚や感性」を求められるのも女性が担わされている役割ですよ。同じように、今ではかなりなくなりましたが、今でも、昔は「外国人」もそうだったんですね。私のように前近代の日本文学を研究する外国人は、日本人では気づかないような、外国人ならではの目を通した新しい発見ができるはずだ、だからそれを我々に与えて

てくださいというふうに二〇代の頃からずっと言われて、それがすごいストレスでした（笑）。

「聴ききる」ことで得られる 深い理解

松高 そういうふうに外側から言われる、押しつけられると、いや、そうじゃないんだけど…と言いたくなりますよね。

キャンベル 押しつけられると、自分の個性や自我というものが、完全にうち消された感じがするんですね。役割を与えられてそれで安心できる人もいるし、すべて悪いというわけではないんですけど、女性であるとか、レズビアンであるとか、ゲイであるとかということが、一つの役割のようなものになると、本人たちは躊躇しますね。そういうことはあると思います。

松高 私たちも心理職として、あるいは一般人としてもそうかもしれないですが、わかりやすいイメージだったり、先入観みたいなものからなかなか自由になれないことがあります。私はカウンセラーが抱えるバイアスについての研究を博士号のときにしていたんですが、自分が研究する立場にいても、つい思い込みというか、そうと気づかずに「ゲイの人」というのは大体こうだね「みたいなふう」に言ってしまうって、「いや、そうじゃないんですけど」と言われたりしたことがあって。なかなかそういうものから自由になれないということは本当にあるし、気をつけなければと思っています。

キャンベル 松高先生と同じように、僕もすごくたくさんの人にインタビューをしたり、話を聴いたりしますが、やっぱり「聴ききる」ということが非常に重要です。日本語のこの

「聴く」「聴ききる」「傾聴する」ということの中には、どこかで判断を留保する姿勢が、善し悪しはちよつと置いておいて相手の立場を共感まではしなくてもそのまま受け取るような態度がありますよね。僕はそこに日本社会の蓄積があると思っています。聴ききることが美德というか、評価される社会であると感じています。

そういうふうに最後まで聴ききつた後に質問をする。あるいは自分の立場を伝える。そこから初めて対話が始まると思うんですね。そして、セクシュアリティに関しては、まずは基本的な知識を持つてることが必要です。どういうことかと言うと、今の私たちが生きている社会の中で、その人たちはどういう状況に置かれているのか。権利と義務、あるいはどういう「制限」に縛られているのかということ、自分の中で整理できていないと、まず聴くことができないと思うんですね。

ただ、最初に私の皮膚感覚から申し上げたように、今この社会の中で生きている人たちの中で、本当に加率的に意識が変わっていつています。「あなたは私とどういふふうに関係がつているのか。これから一緒に



どういうふうにやっていくのか」ということがやっぱり大事だと思っ
ている人たちが増えているように思
います。

ウクライナでの出会い

キャンベル 去年の六月にウクライ
ナに行く機会があって、そのときに
LGBTのシェルターを訪ねたんで
すね。そこに身を寄せている一〇代
の人たちがたくさんいて、施設の担
当者から話を聞いたんですが、早い
話が今日生きるか死ぬかわからない
中で、自分が誰と寝ているかとか、
誰を対象に恋い焦がれているかとい
うことは、本当に小さいことだと彼
ら自身も感じていると言うんですね。
旧ソ連の地域もほぼそうであるよう
に、セクシュアリティに関してウク
ライナは非常に保守的です。そんな
中で戦争が起きて、志願兵の中には
ゲイもレズビアンもトランスヴェス
タイト (transvestite) の人たちがた
くさんいます。中にはレインボーの
腕章をつくって、それをつけている
人たちがかなりいるんです。そして、
戦争で銃器を持つ人たちだけではな
く、多くの人がボランティアになっ
て、自分の仕事以外のことに関わっ

ているんですね。

例えば、リビウのシェルターにい
る若いLGBTの人たちは、土日に
ボランティアで犬の散歩をしている
と聞きました。飼い主を失った犬が
大量にアニマル・シェルターにいて、
彼らは一五人ぐらいのグループでそ
こに行って、毎週二時間ぐらい犬に
散歩させたり、動物と触れ合ったり
しています。また、それぞれの拠点
には心理カウンセラーがいて、医者
もいて、HIVカウンセリングを行
うスペシャリストがいます。そんな
ふうに、いろんな従事者たちがいる

けれども、みんなが社会に出て見え
るような形で貢献をするわけです。
いろんなところでそうした状況が起
きていて、彼らとしては非常に生き
やすくなったというふうに言ってい
るんですね。

災害が起きたり戦争が起きたりす
ると、ある種のユートピア状態にな
ることは、これはよく言われること
です。平和な状態になったらどうな
るのか、また前の状態に戻ってしま
うということもありますが、そうや
って見えるような形で社会に関わっ
ていける、そういう場や契機がある



ということが重要だと思っています。

松高 やっぱり状況が違えば、セク
シュアリティの扱いというか、世の
中の見方や当事者の中での感じ方が
違ってくるよすね。ウクライナとい
う極限状態の中で、そういうことが
起きることもあるし、日本の若者を
取り巻くSNSの状況も実は何がが
すごく変化する契機なのかもしれま
せん。個人の中で変化することも大
事です。が、コミュニケーションだ
たり、それよりも大きな社会状況との兼ね
合いで影響を受けるものだというこ
とを改めて感じました。

キャンベル 二週間余りの滞在でし
たが、朝から晩まで、とにかくたく
さんの人と話しました。本当に信号
待ちをしている間とか、エレベータ
ーを待っている間に話しかけてきて、
私が日本から来たということがわか
ると、「来てくれてありがとう」と
手を取って言うんですね。そして自
分の精神状態を堰を切ったように打
ち明けてくれるわけです。以前は精
神安定剤を飲んでいることは隠すべ
きことだったのが、今はもうみんな
でどういう薬を飲んでいるか見せ合
いっこをしたりしていると。それが
自分たちの武器なんだと。自分は銃
器を持ってないから、せめて心を穏や

かにできるようにしている、だからこれは大切な薬だというふうに言うんです。

私が会ったLGBTの当事者たちは、社会の中で自分の新たな役割を見つけたり、それを拡張したんですね。自分たちが活動できる部分というものが、悲しいことに、不幸の中にあっただけです。

〈社会〉をサポートする視点

松高 少し話が離れてしまいかもしれないんですけども、カウンセリングではそうしたことを大事にしたいと思っっているんです。「自分はこうなんだ」と言えることが本場に重要で、それができないことの大変さというか、ただそこにはできない理由が、しない方が安全かもしれないとか、そういうこともあって…。本場に一概に何がいいとは言えないと思うのですが、一人一人、その人が置かれた状況の中で、何がその人の意思決定において大事なのかということころを丁寧に聴いていくしかないのかなというふうに思います。

キャンベル 松高先生たちがなさっていることは、とても尊い、重要なお仕事ですし、一対一、一人一人と



向き合っさせてされているわけですね。おっしゃる通り、そこにはそのときの状況やそれぞれの判断があると思います。ただ、我々がやっぱり心がけるべきことは、そこにいない人たち——それはその人の保護者であったり、同僚であったり、近所の人たちであったりするわけですが、そうした周囲の人たちが当事者と繋がりを持っているというのを自覚することから始めないといけないと思うんです。

特にここ最近では『虹クロ』という番組に出て、そのフィードバックを

が実は繋がっていて、「ああ、そういう立場や状況に、彼ら彼女たちがいるんだ」と気づく。僕はそれは大事な、とても大きなスイッチだと思うんですね。そのスイッチをやっばり大切にしないといけない。

これは、カウンセリングの場では異なる話になるのかもしれないけれども、そのスイッチに対してもっと私たちが自覚的になってやっばいかなないと。そうすれば、みんなが息をつきやすくなるというか、空気がおいしくなるというか、そういうことがきつとあると思うんです。

松高 本場に関係ないと思っっていた人たちがそういうことに気づいて、それがうねりとなって社会の制度を動かしていった、その中で当事者の人も、そうではない周りの人も変わって、認識がしやすくなって息がしやすくなることは確かにありますよね。

みんながハッピーになる、と言っただらちよつと言い過ぎかもしれないが、ハッピーになる人たちが増えるのは確かだと思うので、私たち心理職の間は個別の関わりを重視してはいますが、一方でキャンベルさんがおっしゃるようなマクロの視点を大事にしなければと思います。



キャンベル もう一つ、私の知人や友人に当事者で子育てをしている人たちがいるんです。本当にその人たちは毎日大変さを噛み締めながら覚悟を持って育てているんですが、一方でその子どもたちは、この日本社会の中で、やっぱりどこか影のようなものの中に生きていますね。そこには抜けるような青空はないんです。例えば、自分にはお父さんが二人いる。お母さんが二人いる。どうして二人は結婚できないのか。こうしたことは子どもの福祉に本当に直結するんですよ。

僕の周りには、わりと立場も恵まれて、それなりにサポートがあつて、お祖父さんやお祖母さんの理解やスタッフの助けがあつたり、あるいは

しっかりそういうことがわかつている学校に子どもを通わせるような場所に住んでいる人たちがいます。そうした人からはそこまで悲壮な話は聞きませんけれども、特に地方にいる人たちは容易なことではないんですね。自分たちで安全なバブルをつくらないと、子どもを守ることができません。それははじめもそうだし、教育環境や部活のこともあります。彼女らから話を聞くと、これはやっぱりマクロで物事を考えないといけないと思います。

そうしたマクロな視点を、心理の先生たちがどのように一対一の臨床現場の中に織り込んで、生かせるかということが重要な点であるように思いますね。

松高 最近ずっと「家族」にどういうサポートができるのかという研究をしたいて考えていたので、本当に今の話と繋がる気がしています。私は広島で活動していて、子育て支援の関係者と話をする機会がありますが、やっぱり同性のカップルに会ったことがないという人がほとんどだ

つたりするんです。そういう人たちにも認識を持ってもらえようように、何かしていかなければいけないと思つています。

キャンベル あと、子育てに関することで言うと、ひとり親世帯を含めて貧困の問題がありますよね。例えば、貧困について国や自治体からサポートを受けることは恥ずかしいことでも何も悪いことでもないんですけども、セクシュアリティについては、特に子育てということになると、自分たち親自身のことはいいけれども、特に子どものことになると、さまざまなハードルがすごく高くなつてしまふことは当然あると思つています。

松高 もうセクシュアリティのことだけではなくて、私たちの中にある多様性やさまざまなニーズをもっと明らかにしていかなければいけないですね。

キャンベル いわゆるセクシュアリティのことマイノリティになっていく人たちの中には「放っておいてよ」と言う人たちもいますし、決して一枚岩ではないわけです。そういうことはあるわけですけども、ただ、やっぱり先ほど言つたように、それでも「聴ききる」ことはできま

す。自分の状況を整理したり、自分の周りがどういうふうにも実際になっているかをしっかりと把握すること。安心して自分はこうだと言えるような、まず小さい空間をつくつていくということが大事ですね。

松高 そうですね。市井の中に自分がいて、どうやってコミュニケーションをつくつていくか。本当はもつとお話をお聴きしたいんですが、残念ながらお時間が来てしまったようです…。
キャンベル ありがとうございます。ちようど日が暮れたところで終わりますね(笑)。

ロバート キャンベル
ニューヨーク市出身。日本文学研究者。専門は江戸・明治時代の文学、特に江戸中期から明治の漢文学、芸術、思想などに関する研究を行う。早稲田大学特命教授、早稲田大学国際文学館(村上天樹ライブラリー)顧問、国文学研究資料館前館長、東京大学名誉教授。主な編著に『戦争語彙集』(岩波書店)、『よむつわ』(淡交社)、『日本古典と感染症』(角川ソフィア文庫、編)、『井上陽水英訳詞集』(講談社)、『東京百年物語』(岩波文庫)等がある。

松高由佳(まつたか ゆか)
2007年広島大学大学院教育学研究科人間科学専攻博士課程後期修了。博士(心理学)。臨床心理士・公認心理師。現在、県立広島大学広島キャンパス学生相談室長、准教授。広島県、広島市HIV派遣カウンセラーとしても活動中。



装画 わたべめぐみ

巻頭対談 ロバート キャンベル × 松高由佳 01

巻頭言 逢魔時と心理臨床 浅田剛正 10

Special Feature Articles

特集1 様々な家族のカタチ 責任編集：香野 毅 11

里親・養子縁組家族も「まんやかに」	上野永子 12
施設養護——「家族」ではなく「家庭的」を目指して	樋口亜瑞佐 14
同性パートナーとかぞくなる	鳩貝啓美 16
不妊治療と生殖技術でできる家族	平山史朗 18
ひとり親家庭	松下姫歌 20

特集2 コミュニケーションツールと面接 責任編集：山崎孝明 25

SNS でつながる新しい心理相談	畑中千紘 26
ビデオ通話と心理療法	富樫公一 28
電話相談	岩田淳子 30
メールだから出会える人、聞ける声がある——支援を届けるメール相談	清水幸恵 32

当事者に役立つ心理教育 「LGBTQ+」 責任編集：葛西真記子 38

レズビアン——まだ会ったことのない、あなたへ	長野 香 39
ゲイ男性と内なるホモフォビア	松高由佳 40
バイセクシャルという困難	梨谷美帆 41
トランスジェンダー	佐々木掌子 42
Aセクシャル——『ない』ことを表すセクシュアリティ	今田千尋 43
Xジェンダー	幸津拓磨 44
Q——「わからない」まま支える	片桐亜希 45

Serial Articles

こころのリフレッシュ 水に入る・湯に浸かる	熊野みき 22
#若手心理士の声 心理臨床の世界に入って	富尾知世 24
心理臨床学会から 日本心理臨床学会第43回大会について	吉川眞理 34
てんてん こころの広場を行く その15	細川韶々 36
WORLD MAP 「自己理解」を真剣な作業として認識するために、本来の国際規格MBTI®を	園田由紀 46
心理臨床家の養成 金城学院大学	川瀬正裕 48
愛媛大学	信原孝司 50
初心者のためのブックガイド	
母という呪縛 娘という牢獄	山根亜希 52
子どもの宇宙	長谷川千紘 53

臨床心理士資格審査の受験資格を取得することができる大学院 54

公認心理師養成機関の情報 55

編集後記・事務局だより

葛西真記子・青木紀久代 56

巻頭言 逢魔時と心理臨床

新潟青陵大学大学院 浅田剛正

「僕、魔法とか魔術の研究がしたいんですよ」

大学生のある日、将来の進路に迷っていた私は、授業の合間に片隅の喫煙所でご一緒した年配女性教授に向かって、雑談交じりにこう話しかけました。すると、その先生は煙草を吹かしながらこともなげに「それなら臨床心理学ね」と答えたのです。冗談めかして言った私の言葉には、実は密かな本心を紛れ込ませていましたが、まさかそれにこんな当たり前のように真っ直ぐ答えが返ってくるとは思ってもみませんでした。私はすでに魔女に臨床心理学を習っていたのか、と自身の将来への道筋が繋がったように感じたことを覚えています。

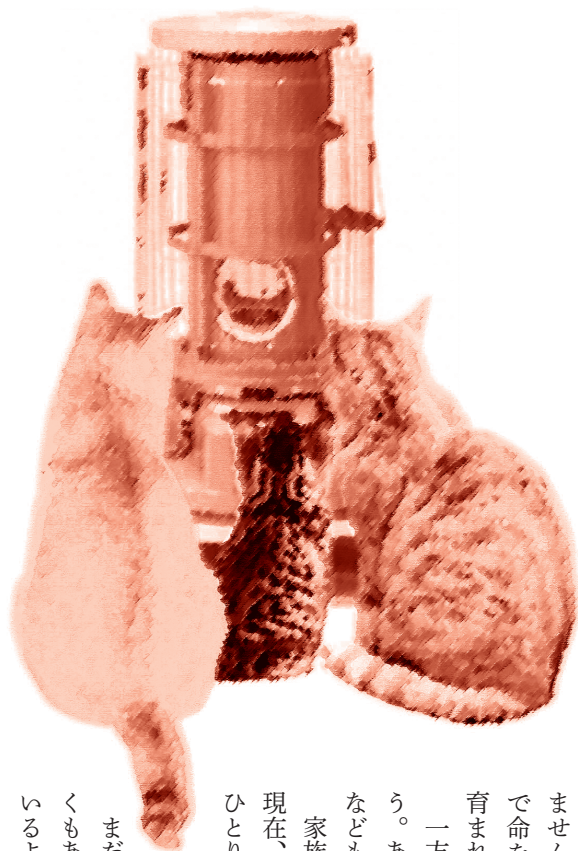
今や中年となった臨床心理士が語るこのイタい昔話を、現代に生きる若い方はどう思われるでしょうか。恥ずかしながら、私は今でも、心理臨床の場で人の心が創り出す不思議な現象や、人との出会いが織りなす縁に触れるたびに、またそのことを誰かと語り合ったりするたびに、かつての中二病的発想で夢見た「魔法研究」に取り組んでいるかのようなワクワク感を覚えます。

遠隔での情報伝達やテキスト・画像・動画の検索、AIによる

自動制御といった魔法のような技術が日常となり、手元の端末で何でもできてしまうようになった時代になっても、私たちの生活を支え、動かしているのは、今なお科学的な理解が及ばないことばかりです。今も昔も、魔法を使って何にでも変身できる子どもがいます。その子ども達の周りには、お化けやものの怪、サンタクロースの仕業によって不思議な出来事が頻発します。大人になっても、私たちの生活にはわからないから知りたくなる、見たくないことに何度も直面してしまう、人の言葉に動かされてしまう等々の不思議に溢れています。

あれから二十五年の月日が経ち、私がこうして心理臨床の世界で続けてこられているのは、あの魔女とのやり取りから始まった「逢魔」が今も続いているからかもしれません。コロナ禍や震災といった理不尽や、不安を抱えながら生きていくという非合理に踏み込んでいくためにも、心理臨床の魔法が必要になることもあるのではないのでしょうか。

様々な家族のカタチ



典型的な家族のカタチとは？と問われたとき、みなさんはその具体像をイメージすることが出来ますか。それを思い浮かべつつ、この問いへの違和感やもしかしたら拒否感すら抱くかもしれません。

確かに親子という生物学的なユニット (parent-child) がなければ人は存在しません。捕食や移動のできない赤ん坊は保護者 (caregiver) にケアされることで命をつなぎます。言葉をはじめとする発達の諸相は関係 (social) のなかで育まれます。家族をイメージするには十分な事実です。

一方で、つながり、絆、支えといった心的なイメージを持つ人もいます。う。あたたかさや安心も。表裏のように、居心地の悪さやしがらみ、疎ましさなども。

家族とは遠目には同じように見えても、近づくほど個別性が際立つようです。現在、まさに様々なカタチ、在り様を見ることが出来ます。三世代、核家族、ひとり親、同性婚、里親、養子、施設ファミリー…。この広がりにななさんは何を感じますか。新しさとともに、「それでいいんだよね」という納得感をもつけることはありませんか。

まだまだ政治や法律の世界はこの事実についていけず、抗っていると見えなくもありません。世代や立場の違いが、多様さを受け止めることを難しくしているようにも解しますが、そもそも家族を定義しようとするところに無理があるようにも感じます。

シンプルに「多様にある」と認めること、そして「より多様になれ」との願いを共有できればと思います。

里親・養子縁組家族も 「まんなか」に

カフェにて

養子縁組家庭を私と共に訪問したSくんがバナナチョコレート・ミルクレープを頬張りながら「血の繋がりのある『普通』の親子と全く変わらないと思います」と少し驚いたような表情をしながら私に感想を語ります。「当たり前でしょう。小さい頃から、一緒に生活しているのだから。血の繋がりがあるとか、な

静岡福祉大学

上野永子

いとか『関係ないよ。親御さん（養母）は、とても、お子さん（養子）を可愛がっておられたでしょう。お子さん（養子）も、めちゃくちゃ懐いていたでしょう。そういう『普通』でないって周囲の認識こそが、実は血縁のない親子を苦しめているんだよね」とシュガーバター・クレープを頬張りながら、やや語気を強めて答える私。

その後、切々と私のかかわる里親子や養子縁組親子が、いかに『普

通』という言葉に苦しめられているのかを説く時間となります。

里・養親子支援で
大事なことって？

私は、フォスタリング機関の心理相談員として、里親子や特別養子縁組による親子の支援を行っています。フォスタリング機関とは、里親委託から措置解除に至るまで、子どもにとって質の高い里親養育がなされるために、さまざまな支援を行う機関です。「新しい社会的養育ビジョン」（二〇一七）によって、社会的養護の子どもたちに対する家庭養育優先の理念が掲げられ、実親による養育が困難であれば、特別養子縁組による永続的解決（パーマネンシーの保障）や里親による養育を推進する方針が明確にされました。そのような流れの中、里・養親子の数は少しずつ増えてきています。家庭養育優先の理念は、家庭的な養育環境が子どもへのニーズに個別に応じることが可能とし、子どもの安定した愛着形成をはかることを期待したものです。子どもは、不安や危険を感じたとき

に、それを慰め安心させてくれる対象（子どもの場合、主に養育者）に對して、安定した愛着を形成します。そのため、子どもの安定した愛着形成には、愛着対象である養育者と血縁関係にある必要はまったくありません。フォスタリング機関で心理相談員として働き始めた当初、私は今まで経験してきた実親子の支援と同じように、里・養子が里・養親に安定した愛着形成ができるように支援することが、私の主な業務になると考えていました。

実際に心理相談を始めると里・養親さんたちの悩みは、実親家庭の実親さんの悩みとほとんど変わりませんでした。里・養子さんの幼児期には、偏食に悩み、イヤイヤ期には養育困難感を感じ、思春期には反抗的態度にイライラしながら、どこまで口を出すのかに悩む。「学校に行きたくない」と言えば、将来を不安に思い、人間関係でつまづいていることがわかると、「どうしたものか」と困惑する。まさしく、「普通」の家族の「あるある相談」ですし、里・養子さんを大事に思っただけで



も、実親さんのそれとまったく変わりません。しかし、実親家庭にはない相談もありました。それは、「あなたには、産んでくれたお母さんが別にいる」ことを里・養子さんに告げる「**真実告知**」についてでした。私がフォスターリング機関で働き始めた当初は、里・養親さんたちの真実告知への躊躇は、里親さん個人の「血縁にないことを子ども（里・養子）に知られたくない」という思いから生まれてくると考えていました。しかし、じっくりとお話を伺ううちに、里・養親さんは「里・養子は、どんな風にか（血縁にないこと）を受け止めるのか」「（子どもが）自分たちが血縁にないことを友だちに告げたら、周囲から何か嫌なことを言われて傷つかないだろうか」「（血縁にない家族であることを知ると）周囲は、自分たちのことをどんな風に見るだろうか」、そんな不安が「**真実告知**」を行うことに対する躊躇の気持ちを生んでいることに気づきました。「**真実告知**」、それは里・養親さんたちにとって、里・養子さんに自分たちが「**普通**」の家

族ではないことを告げることもあったのです。それ以外にも里・養親さんたちは「**遺伝子が違うから**」「**産んでないから**」「**中途養育だから**」といろいろな場面で自分たちが「**普通**」の家族と異なると感じ、そしてそれが里・養子さんにネガティブな影響がないか心配していることがわかりました。そして、そこには何ともいえない哀しみがありました。「**真実告知**」を受けた里・養子さんたちもまた、自分たちが血縁にない家族であることを周囲に告げるときに躊躇があるようでした。それは、みんなと「**違う**」ことであり、「**普通**」でないからのようです。そして、そこにも何ともいえない哀しみがありました。

その哀しみは誰のせい？

その哀しみを知った私は、「**普通**」ってなんだろうと自問しました。確かに、世の中には血縁にない親子よりも血縁にある親子の方が多数派なのは間違いありません。どうやら、私たちは多数派だから「**普通**」で、

少数派だから「**普通**ではない」と考えてしまうようです。そして、「**普通**ではない」ことは、「**周囲に隠さないといけないこと**」だと感じさせてしまうものでもあります。里・養親子たちの哀しみは、社会のまんなかから、**辺縁に追いやられてしまう「感覚」**から生じるように感じます。そんな中で、私は「**多数派**つまり社会の、「**普通**でない」ことの認識を変えることが里・養親子の何とも言えない哀しみを軽減することとに役立つのではないか」と考えるようになりました。そして、今では里・養親さんに、心理相談の場で「**家族にはいろいろな形があることを今では里・養子にも小さい頃から教えてください**。そして、一緒に家族の多様性を認め合う社会を大人の責任として作っていきましょう。私も、**頑張ります**」と伝えていきます。

別れ際に

「**社会の影響**って大きいのですね。あまり、そのことについて考えたことがありませんでした」「**そうなの**

よ。社会全体が、「**家族は多様である**」と認識するようになったら、**血縁にない家族は、もつと生きやすくなる**と思うのよね。そのことにSくんが気づいて、いろいろな家族の形があることを他の人にも伝えられる人になってくれたら、私は嬉しいよ」と話しながら、**アールグレイ・ティー**を飲み干し、二人でカフェを出ました。「**それじゃあ、気をつけて帰ってね**」とSくんを見送った後、私も里・養親子の気持ちを聴いた者として、それを社会に伝える責任を果たし、**ここを大事にする心理士**として「**頑張らねば**」と気持ちをあらたに駅の改札に向かいました。

おわりに

里親・養子縁組家族も「**まんなかに**」した社会構築のためには、皆さんの参画も必要です。どうか、里親・養子縁組家族に「**ここ**」を寄せていただければ嬉しいです。

施設養護

「家族」ではなく「家庭的」を目指して

はじめに

「施設養護」と聞いて、人はどういったものをイメージするでしょうか。「ドラマや映画、アニメに出てくる寄宿学校みたいなどころで大勢の子ども達が賑やかに生活している」といったようなイメージを持っておられる人が多いのではないのでしょうか。確かに、まだそうしたスタイルの施設もありますが、現状の施設養護は厚生労働省の示す二〇一六年の児童福祉法改正の理念を具体化

大阪公立大学

樋口亜瑞佐

した「新しい社会的養育ビジョン」を踏まえ、少しずつ変化してきています。

この特集1ではテーマを「様々な家族のカタチ」と銘打っています。そして「血のつながり」や「法的なつながり」あるいは「当事者の主体的選択によるつながり」といった多様な「家族」のかたちが描かれています。ですが、施設養護はそのいづれとも異なります。施設で暮らす子どもたちと、そこで出会う大人に血のつながりや法的な手続きを経たつながりはありません。また一部の例

を除き、子どもたちは自ら望んで施設で養護されることを選択したわけではありません。施設養護とは「保護者の適切な養育を受けられない子どもを、公的責任で社会的に保護養育するとともに、養育に困難を抱える家庭への支援を行うもの」であると定義されており、社会的養護におけるひとつの養育のあり方です。そして、施設養護で育つ子どもには、養育者による虐待等によって保護され、心身に深いダメージを負っているケースが数多く存在します。「家族」を目指すのではなく「家庭的」であることを目標とする、それが施設養護です。

施設養護のこれまでとこれから

施設養護を行う児童福祉施設のうち、設置数が国内に約六〇〇カ所ある児童養護施設というものがあります。かつては「孤児院」と呼ばれましたが、現在は養育者がいながら離れて暮らすケースがほとんどです。ドラマや映画の舞台になることも多く、二〇一四年に芦田愛菜さん主演

でドラマ化され物議を醸した「明日、ママがいない」や二〇一六年から少年ジャンプに掲載された「約束のネバーランド」のほか数多くの作品で知られています。児童養護施設とは「保護者のない児童、虐待されている児童など、環境上養護を要する児童を入所させて、これを養護し、あわせて退所した者に対する相談その他の自立のための援助を行うことを目的とする施設（児童福祉法第41条）」と定義されています。これに関連して全国児童養護施設協議会はこれからの施設養護について「全員が1つの建物のなかで生活を送るスタイル（大舎制）がまだ多くありますが、1つの建物のなかでも少人数のグループにわかれ（小規模グループケア）、より家庭に近いスタイルで生活をする施設や、建物の構造自体が小グループで生活する『小舎制』の施設が増えてきています。また、近年は施設から離れ地域のなかで生活する地域小規模児童養護施設（グループホーム）など、家庭に近い生活環境により生活する形が推進されています」と述べています。

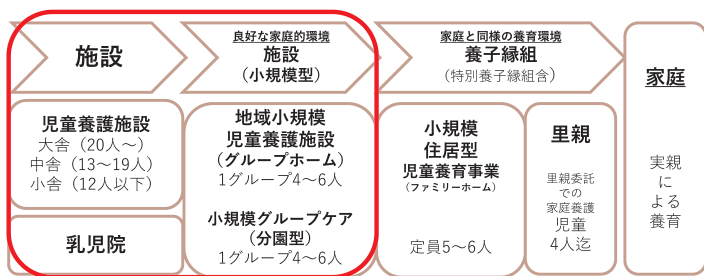


図1：社会的養育の推進に向けて（子ども家庭庁，2023を一部加筆） 枠内が施設養護

このように施設養護は、従来と比較してより家庭的であることが求められるようになりました。それに伴い、出来る限り建物は「家」に近い小舎構造へ、メンバー数は「家族」に近い少人数へとそれぞれ寄せていき、より「良好な家庭的環境」を指すようにと、子ども家庭庁も示唆しています（図1）。

施設養護経験者のつがやき

施設に入所してから数年のあいだ大舎制の構造に育ち、その後の退所までの数年を地域小規模型施設で暮らした入所児童Aは、「やっぱり小規模に移って、初めは慣れなかつたけど、人が少なく静かだし…ご飯を食べる時間帯とかも前みたいに絶対に全員そろっていただきますって感じじゃなくて、柔軟っていうか。この方が家っぽいっていうか。献立も前もって決まってるんじゃないかってその日の冷蔵庫にあるもので作るとか、献立表とかなくなってる。この方がやっぱりええなって思ってます」と話してくれました。そして、施設養護を三歳から一八歳まで経験して社会へ巣立ったBは「小規模化とか、こういう制度作った人ってさ。きつと小さいころはお父さん普通に働いてて、お母さん主婦してて、大きくなって当たり前で大学出たって感じなんちゃう？ 『家』はこういうもの、『家族』はこういうものってイメージがなんだかすごいって

うか。実際に施設で生活してる俺らからしたらさあ、そこじゃないやろって感じるねんなあ…形じゃないっていうか」。物心ついた頃には施設での暮らしが「家」だったBのその言葉に、私は何とも言えない説得力のようなものを感じました。構造物やメンバー数ももちろん重要ですが、本当の家族ではないにせよどこかで「つながり」のようなものを感じられるということが、施設養護の提供すべき、子どもにとって最善の利益なのかもしれません。

おわりに

「うちら家族ちゃうやん！ 居たくて一緒にいるわけちゃうやんけ!!」。施設養護下の最低限度のルールを守れず、指導を受けることが続いたある日、入所児童Cが逆ギレして暴れる職員に叫びました。養育者から深刻なネグレクトを受けたCからは、周囲の大人はもちろん、この世なんか信じてやるものか、という固い決意が私には感じられました。被虐待等によるトラウマに苦しみ、安全や安

心を感じるこの難しい子ども達の心身を適切にケアすることは、施設養護の担う役割であり、関わる大人には多岐にわたる専門性が期待されます。冒頭の話に戻りますが、血のつながりや法的なつながりを持たず、主体的に選択をしたわけでもないけれど支援者の大人と共に住み暮らすのが施設養護です。そこで何らかのつながりを感じてもらえるように心理的な視点から働きかけることが、施設に関わる心理臨床の専門家に求められます。そして関わる大人は家族ではありませんが、子ども達にとってよきロールモデルであることが、施設養護に託された可能性なのかもしれません。

●参考文献

- 浅井春夫・黒田邦夫（二〇一八）『施設養護か里親制度か』の対立軸を超えて——「新しい社会的養育ビジョン」とこれからの社会的養護を展望する』明石書店
- 子ども家庭庁支援局子ども家庭福祉課（二〇二三）「社会的養育の推進に向けて」https://www.cha.go.jp/assets/contents/node/basic_page/field_ref_resources/8ab23f3-ab08-4995-8202-f0f4487bc16/14ba1bcd20230401_policies_shakaikei_yougo_76.pdf（最終閲覧日 2023/12/07）

同性パートナーと かぞくになる

NPO法人レインボーコミュニティCollabo

鳩貝啓美

私は、レズビアンなどセクシュアルマイノリティ女性に向けたNPOで、相談や学び合いの機会をつくり、当事者の声を聴き社会に届けることで、社会を変える活動をしています。私自身もレズビアンで、当事者共通の経験をふまえ、セクシュアルアイデンティティを形成し、セクシュアルマイノリティとして人生を生きる過程を支援してきました。本特集1の「様々な家族のカタチ」のトピック全てに同性パートナーと生きるひ

とは含まれますが、本稿は所謂同性カップルふたりを想定して書き進めます。

同性パートナーの実態

最近では、配偶者や恋人の性別にニュートラルな表現として「パートナー」という言葉を使うひともし出てきました。特にパートナーが同性であるとき、「同性パートナー」と言います。同性愛者を想像する方もい

るでしょうが、個々のアイデンティティは、同性愛者（レズビアンやゲイ）とは限りません。それについては、本号の「当事者に役立つ心理教育」のコーナーの記事も参照してください。パートナーが同性であること以外、異性のカップルと変わらず共同生活を営み、悲喜こもごもの人生を送っています。

では、同性パートナーと生きるひとはどのくらいいるのでしょうか。異性間の有配偶者数が事実婚を含め国勢調査で捕捉されるのに対し、同性カップルは、同居し生計を共にしている「配偶者」と回答しても、「他の親族」扱いに修正され、国は把握していません。また、差別や偏見を恐れて回答できない当事者も多く、実態把握を難しくしています。性的マイノリティの二・七％が同性パートナーと同居しているという調査（二〇二二、埼玉県）を参考にすると、少なくとも確かに存在するのです。

パートナーシップ制度は結婚にあらず

自治体によるパートナーシップ制度ができ八年、各地で導入が進んでいます。しかし、最初に制度ができ世田谷区でも、それを知らない方がまだ五割余りもいます（二〇二三、世田谷区民意調査）。また「パートナーシップ制度を利用したら、結婚おめでとうと言われて複雑な気持ちになった」と、当事者が述べるような理解されにくい状況もあります。というのも、日本では戸籍上同性どうしは結婚できません。パートナーシップ制度は自治体が同性カップルを婚姻に相当する関係として宣誓を受け付けたり、証明するにとどまり、結婚とは別のものです。それにも関わらず、公的に存在を認められるだけでも、当事者にとっては嬉しく勇気づけられるものです。また、パートナーシップ制度には法的効力はないため、利用しない当事者も少なくありません。役所の手続きはカミングアウトをするのと同じで、偏見を向けられるリスクを冒してまでしたくないというひともあります。法的に異性どうしなら、今日出会



つてもすぐ結婚ができ、意識しなくても婚姻届一枚でお互いの生活も人生も守られます。一方、同性パートナーたちは、何十年一緒でも、共に子育てをしても、他人です。何の保障もないパートナーとの人生には常に不安がつきまとうのです。

社会のしくみがもたらす心理的影響

シスジェンダーの異性愛者中心に作られた社会は、同性パートナーと生きるひとを疎外し、ステイグマを与えています。セクシュアルマイノリティは、この社会の中で成長してくる過程で、多くの傷つきやストレスを経験します。それはときに精神的健康を害することもあります。

その後、同性パートナーと共同生活を送るひともあるでしょう。しかし、関係性をオープンにできないひとと少なくありません。従姉妹や友人と偽って同居したり、別に部屋を借りて同居を隠すこともあります。自らを守るために、そうせざるを得ないのです。そして、親族やコミュニティから距離をとるひともあります。

平穏で、若く健康なときは、まだ何とかなるかもしれない。しかし、災害時、病や老い、離死別など人生の苦難に直面したときこそ、社会の現実が迫ってきます。ふたりの関係性の開示、証明が求められ、ともすれば関係は無にされます。肝心なときに同性パートナーを支え、傍らにいたることすらできないこともあるのです。

助けが必要なときに辛い気持ちを話せる場がなく、問題がこじれたり、特に女性は経済的不安を抱えやすいといったことも起きます。私たちNPOに寄せられるこのような声からは、当事者の生き辛さや苦悩の多くが、社会のしくみゆえの差別や偏見、カミングアウトの困難さからきていることが伺えます。

多様なかそくが当たり前の社会に

同性カップルが法的に結婚できることに賛成、という市民が増えており、調査によっては八割を超えられます。若い世代を中心に意識は変わりつつあるようです。

当事者もまた、同性パートナーとの人生に変化を起こしています。親族中に自分たちのことを開示し、ふたりで子どもを産み育て、職場に對し同性パートナーをもつことをふまえた制度にするよう働きかけるなど、挑戦するひともあります。自分の描く生き方を実現するために、ロールモデルを探し、たくさん勉強し、お金もかけて人生を切り開いています。



また、戸籍上同性どうしの結婚を求める裁判（結婚の自由をすべてのひとに訴訟）も全国で審理中です。同性パートナーと生きるひとたちの心理・社会的な苦悩の多くは、異性間と平等に結婚する選択肢がもてるようになれば、時間が経つにつれ変わっていくことでしょう。その日がくるまで、私たち市民ができることは何でしょうか。

あなたの隣にいるかもしれない当事者の語りを、ある時は友人、近隣の人、援助者として、その声にも耳を澄まし、多数派の常識ではなく想像力をもって受けとめてみることは大きな一歩です。多様なかそくが当たり前になっている社会を、市民が先に作っていきませんか。私は、本稿で述べたような社会構造、社会の影響をふまえて当事者の悩みに寄り添い、個人々の行動を支えていけたら、と思います。マイノリティの存在に眼差す、多様性が前提の社会に変わるよう微力ながら尽力していきます。ぜひ一緒に！

不妊治療と生殖技術で できる家族

東京リプロダクティブカウンセリングセンター

平山史朗

リプロダクティブライフプランと
リプロダクティブ・ライツ

私たちは、残念ながら生まれ育つ家族は選べないことがほとんどですが、自分が成人してからどのような家族を作って生活していくかについては選ぶ自由を本来的に持っています。自分が家族を作る際に、生殖（妊娠・出産により子どもを持つこと）に関する事項も含めた計画のことを「リプロダクティブライフプラン（生殖にかかわる人生計画）」といえます。パートナーを持つかどうか、そのパートナーと法的な婚姻関係を結ぶか、子どもを持つか持たないか、持つとすればいつ頃何人ほしかを考え、その計画を実現するために妊娠に向けた（妊娠しない選択

をする場合でも）健康な心身づくりをすることを「プレコンセプションケア」と呼び、近年注目されています。そして、自分が望んだように子どもを持つことは「リプロダクティブ・ライツ（生殖にかかわる権利）」として尊重されるべきであり、今はやりの国連が定めた「持続可能な開発目標（SDGs）」にもこの権利の達成が含まれています。

不妊治療と生殖技術の進展

さて、私の活動領域は、生殖医療、いわゆる不妊治療における心理支援です。歴史的には、男女の夫婦が子どもを望んでも授からない場合、わが国を含む多くの文化では女性の責任として考えられてきました。心理

学においても、「母親との葛藤があるから」「成熟を拒絶しているから」不妊になるのだという「心因性不妊」の考え方から精神的な治療が行われてきた時代もありました。

しかし一九七八年に体外受精技術が開発され大きな変革が訪れます。生殖の仕組みが科学的に解明され始め、不妊の多くが男女問わず心理的な問題ではなく精子・卵子・子宮の問題によって生じることが明らかになりました。その後さまざまな生殖技術が開発され、多くの不妊カップルに子どもが得られるようになりました。これら高度な生殖技術をわが国では「生殖補助医療（ART：アートの読みます）」と呼び、現在では年間延べ五〇万組のカップルが利用し、七万人の赤ちゃん（全出生児の一〇―一二人に一人の割合です）が誕生するまでに普及しています。

生殖技術が変えた 「家族」のあり方

このように不妊の男女カップルのために開発されてきた生殖技術ですが、その結果として家族のあり方が

変えることになりました（表1）。

まず、性交しなくても生殖ができるようになり、生殖が要素に分割されたことで、第三者の関与が容易になりました（①②）。精子・卵子・子宮という要素のうち、自分（たち）に不足しているものを第三者に担当してもらおうことで子どもを作るのです。そうすると子どもを育てようとする人だけでなく、「精子の親」や「卵子の親」など、従来の「親」の概念を分化・拡張する必要が出てきます。そして、いのはじまりの可視化と凍結保存技術は、自分の「子ども」としての配偶子や受精卵の人格化に繋がっています（③④）。最近の不妊治療施設では受精卵の発育の様子をタイムラプス（コマ撮り）動画で見られることが増え、これまで胎動や超音波画像で赤ちゃんの存在を実感していた親子の愛着関係のはじまりが、配偶子や受精卵の段階からスタートすることになります。愛着の対象ということは当然失われた際には喪失の悲しみを経験することになりますので、グリーンケアの観点からも子どもや家族の一



表1 生殖技術が「家族のあり方」に与えた影響

① 性交を不要にした（人工授精・体外受精） ⇒ロマンティック・ラブ・イデオロギーからの解放
② 精子・卵子・子宮という要素に分離可能にした（体外受精） ⇒精子の親、卵子の親、子宮の親、出産する親、養育する親など従来の「親」概念の分化・拡張により第三者の関与が容易に
③ 命の誕生の始まりを可視化した（体外受精・タイムラブス培養） ⇒愛着と喪失の対象としての配偶子や受精卵の存在
④ 時空を超えた生殖を可能にした（凍結保存技術） ⇒高齢の人も（あるいは自身の死後も：死後生殖）、遠く離れた場所でも子どもを持つことが可能に ⇒自身に不要となった配偶子・受精卵の廃棄に対する葛藤
⑤ 妊娠成立以前に児の情報が得られるようになった（着床前検査） ⇒自身が望んだ形質の子を産み、望まない形質の子を産まない技術

※第三者生殖の大部分、死後生殖、着床前検査の一部はわが国では実施が認められていない

員としての受精卵の存在を意識する必要ががあります。また、凍結保存された受精卵は技術的には半永久的に保存できるため、自分の死後に自分の子どもが誕生したり（死後生殖）、作成したけれども使用されずに残った受精卵を廃棄する際に自分の意思

で子どもを捨ててしまうような感覚に苦しむ人も増えています。

第三者がかかわる生殖で誕生する家族

前述の第三者がかかわる生殖が技術的に可能になったことで、これまで

で子どもを持つ手段のなかった人が子どもを持てるようになりました。わが国ではこれらの方法の実施に関する法律がないため、これまでは日本産科婦人科学会のガイドラインに基づく自主規制で運用され、法的な男女夫婦に対する提供精子による人工授精（AID）のみ公認され、それ以外の精子提供体外受精や卵子提供、代理懐胎については原則禁止の状況です。ただ法的な規制ではないため、独自の基準でこれらの治療を実施している施設や、治療が受けられる海外に渡航する人々も少なからずいますし、最近ではSNSを通じた医療を介さない精子提供を利用して子どもを持つ女性やカップルなどにおいて、安全面の問

題などが危惧され社会問題にもなっています。現在超党派の国会議員が第三者がかかわる生殖補助医療の法案化を進めている状況ですが、それが子どもを望む人に、そして生まれてくる子どもにとって幸福なシテムになるかは未知数です。

生殖について考えるのは、「家族」について考えること

法律婚の夫婦であれ、そうでない家族で子どもを望む人であれ、生殖技術を用いて子どもを持つことに議論があるのは事実です。それならば、誰がどのようにして子どもを持つことを決めてよいのでしょうか。生殖技術はいまや医療の枠を超えて、家族のあり方そのものを問うものとなっているのですから、私たち一人一人が自分ごととして、現実を見据えたルール作りに関心を持つことがますます大切でしょう。個人の子どもの持つ権利を最大限に尊重したうえで、それでも制限をかけることに正当性があるとしたら、それは「生まれてくる子どもの福祉」が害される可能性を最も考慮すべきではないかと思

います。子どもの福祉を考えることは「血縁がなければ親子ではない」とか「普通でない」形の家族で生まれ育つ子どもはかわいそう」という誤った認識からこれらの家族を排除することではありません。子どもの福祉を最大限担保するための一つの目安として、「応答責任原理」（森岡、二〇二〇）を紹介します。これは、「親にならうとする者は、生まれた子どもが誕生否定の考えを抱いて親に『なぜ自分を産んだのか』と問うたときにその問いに真摯に応答していく、という決意を持たなくてはならない」というものです。親を選べない子どもが「この親の元に生まれてきてよかった」と感じるためにも、生殖技術をどのように利用していくのかについて、すべての人が真剣に考えてほしいと思います。

●参考文献
森岡正博（二〇二〇）「リザカ・ワインバ ーグの出産許容性原理について」『現代生命哲学研究』9：80～88

ひとり親家庭

ひとり親家庭という生き方

近年、「ひとり親家庭」という言葉が、「母子家庭」「父子家庭」に代わって積極的に用いられるようになってきました。ひとり親家庭の定義はいくつかありますが、ここでは、離婚や死別など、何らかの理由で、一八歳未満の未婚の子どもの養育と生計をひとりの養育者が主に担っている家庭を指すものとします。「養育者」は、いわゆる「生みの親」「生物学的な親」の場合もあれば、それに限らない「法律上の親」もあります。心理臨床の現場に身を置くと、さ

京都大学大学院
松下姫歌

さまざまな家庭のあり方に出会います。ひとり親家庭かどうか以前に、家庭というものは、ひとつとして同じものではなく、多様です。そして、その内実を知っていくことで、知らず知らずのうちにはまり込んでいた先入観や偏見に気付かされ、家族や家庭のあり方、親子のあり方、それぞれの人のもつ心の強さやポテンシャルに、目を開かされることも少なくありません。

実際のひとり親家庭は一括りにしにくいほど実にいろいろです。母あるいは父との死別によって父子あるいは母子で生活している家庭。夫のDVで離婚した母親が就労して生活

基盤を整えながら子育てをしている家庭。親の実親やきょうだいなどの原家族に協力を得られる場合。原家族との関係に難しさがある場合。逆に原家族の介護もおこなっている場合。親自身が病を抱えている場合。親の経済力も幅がありますが、生計を立てながら、子育てをしながら、さらにさまざまな事情を複数抱えながら、人生を歩んでおられる親と子のそれぞれの目から見た世界や、それぞれの心が感じていることには、そのギャップも含めて、学ぶことが多いと感じています。

ひとり親家庭をめぐる偏見の問題

「ひとり親家庭」という用語への変更の動きは、家庭をめぐる一種の社会的偏見を払拭しようとする動きのひとつの表れです。たとえば、「父母と子という家族構成による家庭が一般的である」という偏見、つまり、「父母のどちらかが欠けている家庭」という偏見といったものが、社会にはまだまだあるのではないかと、というわけです。

確かに、このような偏見は社会のさまざまな局面に散見されるように思えます。一方で、その社会に生きる人が、こうした偏見に違和感をもつ場合も少なくないのではないかと、も思います。一般に、家族や家庭のイメージ、母親・父親や子どものイメージ等は、その社会の時代や文化の影響を大きく受けています。その社会では当たり前とされる家庭や親や子のイメージに違和感を覚えたり、イメージに縛られて苦しんだりといったことは、多かれ少なかれ、どんな人にもあるのではないでしょう。

すでに、ひとり親家庭はまったく珍しくなく、むしろよく出会うように思えます。ひとり親家庭の親子の方々の、ふとした時のあり方に、社会的偏見を打ち破る一つの生きた答えを見出して感嘆することもあります。それだけでなく、知人同士の集まりで、ひとり親家庭であるかどうかをことさらに意識することもなく交流し、個々がそれぞれの家庭で抱えている目下の悩みをシェアしあう中で、個々の事情固有の困難について



相互理解を重ねたり、苦勞や努力を
労い合ったりする中で、どこか通じ
合う普遍的な要素も見いだされてく
ることも体験します。

ひとり親家庭をめぐる 格差の問題

個々の個人レベルでは理解が進ん
でいる面があるとしても、あらため
て社会全体に目を向け直すと、ひと
り親家庭には社会的弱者としての側
面があることは否めません。実は、
数十年前から、ひとり親家庭をめぐ
る社会的偏見や無知の問題が、法律

や行政の不備や対応の不均衡を生ん
でいるため、家庭の多様性をカバー
しうる法や行政の整備が必要である
と国内外で指摘され続けてきた歴史
があります。

二〇二一年度の全国ひとり親世帯
等調査(旧・全国母子世帯等調査)
によれば、母子世帯が約一二〇万、
父子世帯が約一五万、父母以外の養
育者世帯の数は不明ですが、これだ
けでも約一三五万世帯にのぼります
ひとり親家庭の親の就業率は八割以
上と低くはないのですが、父親の場

合は七割が正規雇用であるのに対し、
母親は正規雇用が五割を下回り、非
正規雇用が約四割を占め、年間収入
の平均は父親の約五〇〇万に対し、
母親は約二七〇万です。実際の個々
の家庭の状況はまちまちとはいえ、
全体にならした時には、親の性別に
よる経済格差が顕著であると言わざ
るを得ず、かなり苦しい状況に追い
込まれている母子の家庭も少なくな
いであろうことが推察されます。

このように、ひとり親家庭の問題
には、女性の地位が著しく低いとい
う、日本社会のもつ性差別の問題が
深く根を下ろしていることがわかり
ます。子どもの貧困問題、少子化・
晩婚化の問題も同根です。国際的見
地からは、日本社会は、マイノリテ
ィや格差の問題を、社会のもつ課題
としてではなく、個人や家庭の問題
として捉える傾向が強く、法整備等
も遅れていると指摘されています。
二〇二三年四月一日、「こども基本
法」が施行されました。子どもの権
利条約が国連総会で採択されたのが
一九八九年、日本の批准が一九九四
年ですので、締結国による法・行政

子どもの力

整備(4条)の実現に三〇年かかっ
たわけですが、その地点に到達でき
たのは喜ばしいことです。この法と
同時に発足したこども家庭庁は、
「こどもまんなか社会」の実現に向
け、喫緊の課題である、子どもの貧
困とその根底にある性差別の問題に
取り組むとしています。われわれ一
人ひとりも、親と子のそれぞれの目
線を大切にしていきたいと思いま

最後に、子どもについて少しだけ
これまで、心理臨床の現場で、たく
さんのひとり親家庭の親・養育者と
子どもにお会いしてきました。一人
一人の顔が浮かびます。一人一人異
なるので、十把ひとからげにたく
ない気持ちが強いのですが、現場に
入った頃に出会った不登校の中学生
Aさんに登場してもらいましょ。う。
Aさんは血のつながりのない祖母と
二人暮らしでした。実質的な育ての
親と感じ、あたたかくて大好きと語
っていました。そんなAさんは、一
番古い記憶を尋ねた時、こう答えま

した。
赤ちゃんの頃、お母さんが服薬自
殺しようとするのを止めようとして
いるところ。

まだ言葉をしゃべれない頃で、必
死にはいいいで近づいて行っている
ところ。

その頃は、お母さんと二人暮らし
だった頃。

これを聴いた瞬間、二人の姿が見
えました。Aさんの、お母さんへの、
家族としての、共に生きる者として
の、生きものとしての、強い愛のよ
うなものが、強烈に胸に突き刺さり、
堪えきれず涙があふれてしまいまし
た。「Aさん、赤ちゃんなのに、す
ごいね」と言うのが精いっぱいだし
た。Aさんも涙を静かに流し、二人
して泣きました。

人の絆や心のつながりの本質を、
最もダイレクトに心で捉えているの
は、子どもです。家庭の形ではなく、
心の絆とは何なのかといった、目
見えにくい本質に、理屈でなく、心
が反応しうる。そういう力と強さを、
子どもはもっていると思っています。

水に入る・湯に浸かる

愛媛大学大学院教育学研究科 熊野みき

私の「こころのリフレッシュ」は、水に入ること、湯に浸かることです。

水に浸かる

私は、水の中に入ることが好きです。泳ぐことももちろんですが、プールに入って水の中に潜る時の感覚が好きです。周囲の音が遮断され、静かな世界が広がります。そのうち、自分の思っていることや考えていることが、いつもよりしっかりと聞こえてくるような気がします。でも、そ

んな時間は長くは続きません。息が苦しくなるので、外の世界に顔を出して、新鮮な空気をたっぷりと吸い込みます。そしてまた、水の中の世界へ。

水の中に入るとは、大きさに言とうと、私にとっては一瞬にして世界が切り替わる体験です。言葉で他者とやり取りすること、音が聞こえること、私にとっては普段当然のようにそこにある世界が、変わります。水の中に入るだけで、外界から遮断された自分の感覚に注意が向けられ

ます。もしかすると私は、潜ったり泳いだりしながら、自己対話をしているのかもしれませんが、それが「リフレッシュ」なのかと問われると、よく分からないところもあります。普段考えが立ちこちに飛びやすい私にとっては、集中して自分の感覚と向き合うことのできる状態であり、考えを整理したり、凝り固まった思考から距離を取ったりでき、リフレッシュの効果があるように感じています。

あとは、水の発する音も、私には心地よく感じられます。ぴたりとくる擬音語がなかなかないので、コポコポ、クルル、コロコロといった水中の音、ピチャン、ジャブンツといった水面の音、心地のいい音に囲まれて、しばし日常を忘れたい。写真は、とある動物園でシロクマが泳いでいるプールを下からカメラに収めたものですが、水の中の感じをいくらかお伝えできません。

プールの端で、潜ったり顔を上げたりを繰り返している人を見かけると、ちよつと不審かもしれません。

なので、こればかりを続けるのはやめて、泳いでみることにします。

泳ぐ

私は、幼い頃から水に入ることが好きで、学生時代は水泳部に所属し、大人になってからもマスターズ登録をして、水泳・競泳を続けてきました。ライフスタイルの変化で家を空けづらくなってからは、なかなかプール通いもできなくなりましたが、時間を見つけてはプールに行っています。

プールに入り、無心で泳ぎ続けると、体も心もすっきりします。日々の雑多なことから離れて、水の心地よい感触と自分の体験に集中します。そして、プールから上がった後の心地のいい疲労感。体の中から温まった熱と体の重みを感じながら、ぼーっと一息つく時間は、至福の時間です。

Covid-19が猛威をふるった期間、残念ながらほとんど泳ぐことはできませんでしたが、そうした時間が逆に、水に入ることや泳ぐことがどれ

ほど私にとって大切なのかを実感させてくれました。そんな中、二〇二一年に約一〇年ぶりにマスターズの大会に参加しました。大会の前には、成人スイマーの集まる練習会に数回参加し、久々にハードな練習をしました。体が悲鳴を上げるのを感じつつ、学生時代、水泳に明け暮れていた頃の自分を思い出しました。水の冷たさや重みに苦痛を感じながら、

少しでもタイムを縮めようと練習に励んでいたこと、大会で思うような結果が出せず落ち込んだり、逆に満足いく結果が得られて喜んだりしたこと、その時々仲間たちとの思い出。どれも今の私につながる、大切な私の経験です。様々な経験を積み重ねてきて、今の私があるんだなということを変更して感じます。



泳ぎ疲れた体を癒すのに、次は温泉でお湯に浸かりたいと思います。

湯に浸かる

水泳とともに「水」にまつわる私のこのころのリフレッシュ方法は、お湯に浸かることです。

私は身近に温泉施設がある地域で育ったこともあり、幼少期から温泉に行くことは多かったのかもしれない。家の浴槽とは違う大きなお風呂で手足を伸ばしてゆったりお湯に浸かると、その日の疲れがスーッと溶け出ていくような気がします。最近、岩盤浴や寝湯など、工夫を凝らした設備がある施設も増え、単にお湯に浸かるだけではない楽しみ方もあります。寝不足が続いた日には、寝湯に寝転がりうたた寝を、体の疲れを強く感じる日は、塩風呂や塩サウナで汗をかき、体の芯が冷えているように感じる日は、岩盤浴や歩行浴を。自分の状態に合わせて、行く施設や入るお風呂を選んでいくような気がします。

数年前、面白い温泉施設に行きま

した。たくさんの種類の浴槽やサウナがあり、定められた順に巡っていくのですが、最後はなんと、そばにある海に入ります。もちろん季節によると思いますが、その時は、火照った体で海水に入ると、何とも言えない心地よさに全身が包まれました。生命は海から誕生したんだっけと壮大なことをイメージしながら、海風呂を堪能しました。日本最古の温泉とされる道後温泉の歴史は、なんと三千年前にまで遡ると言われています。きつと昔から、人々は温泉の癒し・リフレッシュ効果を感じ、生活に取り入れてきたのだろうと想像します。

私の「このころのリフレッシュ」は、大好きな水や湯に触れ、身体的に自分を戻すことなのだろうかと、原稿に取り組みながら改めて感じました。自分らしくいられる場所や方法を持っていること、それが「このころのリフレッシュ」につながるのだろうと思います。

心理臨床の世界に入って

臨床現場に出てみて、研究を始めて、かつこよくまとまっていけないけど、まだまだ粗削りだけど、私の考えを、

体験を、アイデアを発信したい——そんな若手心理士の声を届けるコーナー。今回は、家庭裁判所調査官の富尾知世さん（岡山家庭裁判所倉敷支部）の声を聞いてみましょう。

心理臨床の世界に入ったきっかけ

五歳ぐらいの頃、自分の手の平を眺めて、この手は誰が動かしているのだらうと考えたことがありました。頭の中で考えている自分と、手を動かしている自分は違う気がしたので、この一種の解離のような体験が、

心に興味を持つ原体験になっていると思います。

高校生になって、サヴァン症候群でありアスペルガー症候群でもあるダニエル・タメット著『ぼくには数字が風景に見える』を読み、自分が見ている世界は、他の人には違うように見えているかもしれないと思うようになりました。大学では自己認知に関する研究をしていましたが、臨床現場で人に関わる仕事がしたいと思うようになり、臨床心理士養成の大学院に進学しました。

臨床の現場の中で

卒業後は、非行少年や離婚の狭間

にいた子どもなどに関わる仕事である、家庭裁判所調査官になりました。仕事で出会う人たちは、まさに人生の岐路に立つ少年や当事者です。私は、その人の人生を変えることはできない、でも、その人が人生を変化させるための踏み台になれば、と思いつながら仕事を続けています。これは、自分の力不足でうまくいかなかったと落ち込んだ時に、先輩から自分の影響力を大きく見積もりすぎていると声を掛けられ、ハツとしてからでした。

仕事以外の時間に、ふと過去に担当した少年や当事者を思い出すことがあります。あの子は今どうしているだろうと思いを馳せることもあれば、もう少しこうしておけば良かったと考えることもあります。人の心に関わる仕事と私生活を切り離すことは難しいと感じています。人に向き合い、自分自身が揺さぶられる体験は、この仕事の醍醐味でもあると思っています。

私が学会に所属する理由

仕事を始めて、なかなか自分の領域以外の心理士と出会ったり、意見を交わしたりする機会がないことに気づきました。学会は、他領域の心理士の実情を知れることが面白く、そこから自分の臨床へのヒントを得られること、そして研究活動の仲間に出会えることが魅力だと感じています。最近の私は、少しでも自分の記憶に刻みこむために、学会発表の場では勇気を振り絞って質問や感想を言うようにしています。以前、若手の会の企画で質問したところ、それをきっかけに、書籍の一部を執筆する機会を得ることができました。また、今、学会で出会った人々と新しい研究に向けて動き始めています。すべての活動の原動力は、他の世界を見てみたいという好奇心ですが、それが自分の臨床の何らかの糧になったらよいなと思っています。

コミュニケーションツールと面接

カウンセリングは、クライアントとカウンセラーが場所を同じくする「対面」をその基本として発展してきました。というより、そもそも人と人が話すのには「対面」することが必須だったがゆえに、カウンセリングもそうであった、というほうが正しいでしょう。

しかし、技術の発展とともに、電話、メール、テレビ電話、SNS……と「対面」しなくとも「話す」ことのできる選択肢は多様なものになってきています。カウンセリングでも、そういったデバイスを用いることが少しずつ増えてきていました。それらの方法の最大の利点は、「届かない人に届く」ようになることでしょう。

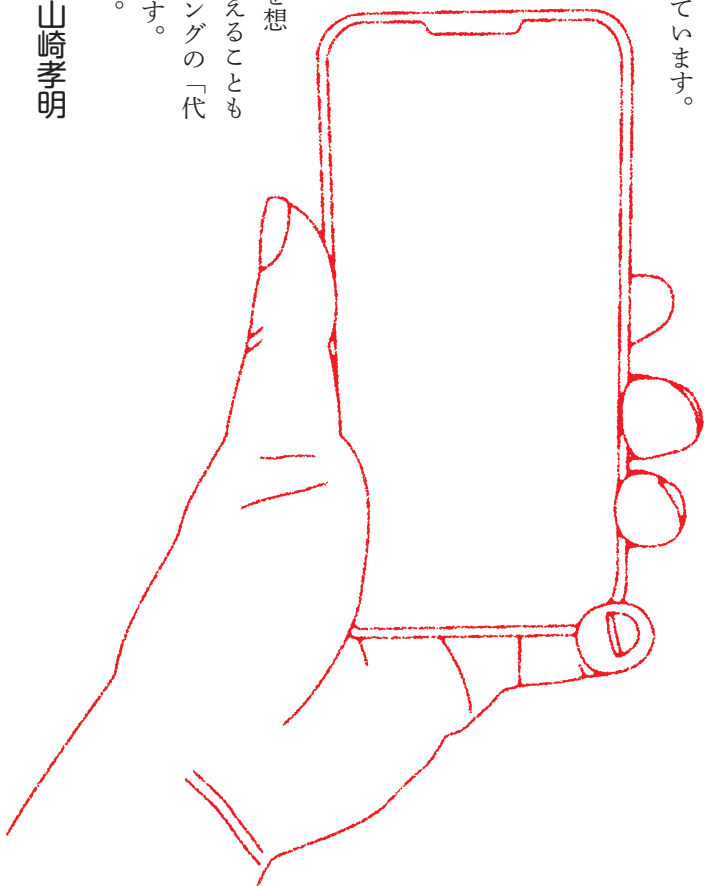
何事も、新しいことを始めると、従来の方法でアイデンティティを作ってきた人からは批判を受けます。ですから、長い間、対面以外のカウンセリングは「代替手段」として捉えられてきました。

しかし、コロナ禍を機に、「対面」に拘っていたカウンセラーでもそういった選択肢を利用することが一般化し、オンライン面接が一気に市民権を得たのです。

いまや、テキスト、電話、オンラインといったデバイスがない世界を想像するのが難しいように、カウンセリングでそれらを利用しないと考えることも不可能です。デバイスを用いてのカウンセリングは、対面のカウンセリングの「代替手段」としてではなく、独立した方法として認識されてきているのです。

さまざまなツールを用いてのカウンセリングの現場、ごらんください。

こども・思春期メンタルクリニック 山崎孝明



SNSでつながる 新しい心理相談

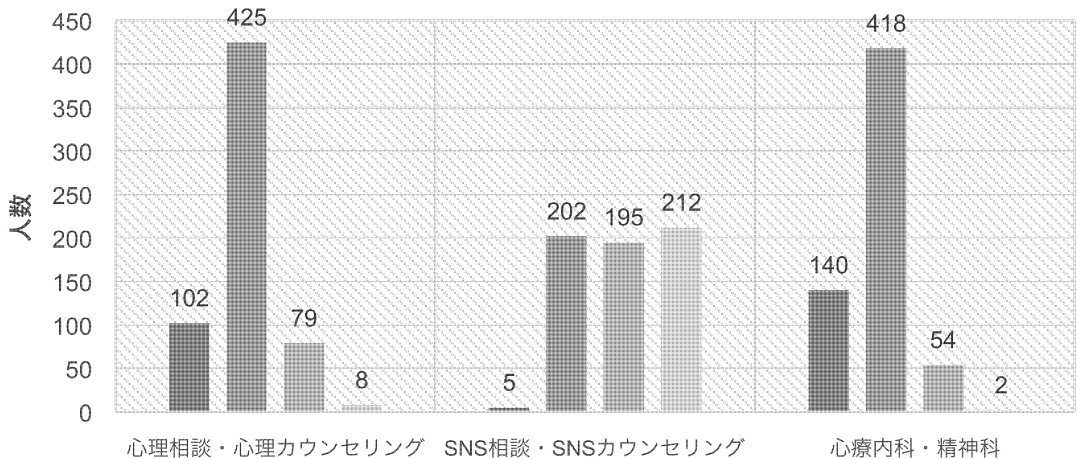
京都大学大学院
畑中千紘

SNSカウンセリングの浸透

みなさんはSNSカウンセリングをご存じでしょうか。文字通りSNSを使ってチャット形式で心理相談・心理カウンセリングを受けることができるサービスです。どの年代でも利用率が高いことから、現在はLINEアプリを使ったものが多く、多くの自治体や相談機関が導入し始めています。日本では二〇一七年に長野県で初めて中高生を対象にした心理相談事業が試験的に行われましたが、そこでは若い人たちが想像以上にSNSによる相談ニーズをもっていることが明らかになりました。その後、新型コロナウイルス感染症の流行によって非接触での相談の必要性が高まったことも重なり、さら

に急速にSNS相談の普及が進みました。ただ、あまりにも速いスピードで社会実装されてきたために、一般の人々に正しく知ってもらうための広報や専門家の参入状況などまだまだ課題があることも事実です。

下のグラフは、二〇二一年に私たちの研究チームで行ったウェブ調査の結果です。この調査では、SNS相談の認知度を調べるといふ目的で、一〇代から六〇代までの成人六一四名を対象に「SNS相談・カウンセリング」を知っているか、利用したことがあるかを尋ねました。比較のために、従来から使われている「(対面での)心理相談・心理カウンセリング」と「心療内科・精神科」についても併せて尋ねることとしました。その結果、心理相談および心療内科・精神科についてはどんなものか



- 知っている、利用したことがある
- 知っているが、利用したことはない
- 言葉はみたり聞いたりしたことがあるがどんなものかは知らない
- その言葉をみたことも聞いたこともない

図 各種心理相談の認知度調査の結果

「知っている」という回答が八割を超えているのに対し、SNS相談は「言葉はみたり聞いたりしたことがあるがどんなものかは知らない」「その言葉をみたことも聞いたこともない」という回答が三分の二を占めていました。調査から少し時間がたっているので、現在はこれよりも認知度が高まっていると予測されますが、それでもやはり、SNSで心理相談というのがどのようなかわからないという人は多いものと思われま

SNS相談の強み

この調査では、SNS相談・SNSカウンセリングに対してのイメージについても尋ねています。その中でどの年代でも強くもたれていたイメージは「気軽に利用できる」というものでした。そもそもSNS相談が導入された背景には、はじめや虐待、自殺など若い世代をとりまく問題が非常に深刻化している中、電話やメールを用いた従来の遠隔相談では一〇〜二〇代の利用率が低く、S

N/S上で助けを求めることが多いという現実がありました。確かに、追いつめられているとき、困っているときにわざわざ相談機関を調べて出かけていくのはとても大変なことです。自宅など好きな場所から好きな時間に、自分のスマホで相談が可能でSNS相談はアクセシビリティの点でもすぐれているといえます。さらに、顔や名前を知られることなくチャットのみで相談が可能であるため、自分を晒すことに抵抗がある人や、他者に話しにくい悩みを抱えている人でも比較的相談がしやすい形態といえるでしょう。

気軽さの裏側

手軽に、生活の中から相談ができるというのがSNS相談の大きな強みですが、もちろんその裏には弱点もあります。そのひとつは、相手の顔が見えないのでどんな人が向こうにいるかわからないというものです。先の調査では、「相談員がどんな人かわからないのが怖い」「チャットでちゃんと気持ちを伝えられるだろ

うか」という不安の声の他、「どうせ大学生がバイトでやっているんだろ」「マニュアルに沿って機械的に返信してるんじゃないか」などの不信任も記述されていました。「対話相手の顔が見えない」という特徴は、一方では対人緊張を感じなくすむという良い面も持っているのですが、大事な相談をする相手があんな表情でどんな態度であるのかが見えにくいとなると、不安を抱くのも当然のことかもしれません。実は筆者自身も、大事なことを話す場である心理相談が果たしてSNSのようなツールで可能なのだろうか、半信半疑のところがありました。しかし実際に相談員として話をしてみるとまず何よりも、「意外と人と話している感覚がある」「画面の向こうに相談者さんの存在を感じる」という実感をもてたことが驚きでした。

よく考えてみれば、LINEで家族や友達とやりとりをするときに「LINEだから相手の気持ちがわからない」と感じることはあまりありません。人間は文字の向こう側に生きただ存在をしつかり感じることができ

るのだという、当たり前のようだけれどすごい力について思い知らされた気がしました。実際には多くの相談事業においてきちんと訓練を受けた相談員が誠心誠意対応していますし、不安に思う必要はないのですが、不安を感じる場合には、その不安も含めて相談員に話してみるのもよいかと思えます。

SNSカウンセリングが開く この未来

SNSカウンセリングは、自分を晒しすぎることなく相談ができるため、人に言いにくいことを相談しやすいツールです。また同時に、「わざわざ専門家に相談するほどでもない」と思うようなライトな相談にも適しています。そのような意味で、単なる対面相談の代替以上の役割を担うようになっていくのがSNS相談なのです。登場してから現在まで、SNSはますます多くの人に利用されるようになっていきますが、その事実こそがSNSが私たちのところにフィットする場なのだということを示唆しているのかもしれない。

ビデオ通話と心理療法

甲南大学
富樫公一

この話はビデオ通話に特化したものにはならないと思います。心理療法は、治療者と患者が直接顔を合わせるものとして始まりました。やがて、電話が使われるようになり、メールが普及すればそれが用いられ、ビデオ通話が広まると今度はそれが用いられました。現在、ビデオ通話はそれなりに最先端ですが、数年経てばどうなっているかわかりません。歩みを止めない技術革新の前に、ビデオ通話だけを語ることに私は意味を感じないのです。それに、その手

の議論はパンデミックの頃、偉い先生たちが随分やってくれました。

私は二〇〇一年から五年間米国で臨床をしていましたが、米国は国土が広いこともあって、電話の心理療法は珍しくありませんでした。その長短や注意事項も当時から活発に議論されていきました (Anson, 2000)。よく目にしたのは「視覚的情報がないことの不十分さ」「耳元でささやき合う人間関係の距離の問題」「声だけでアセスメントや診断をする危険性」といった批判や注意喚起でした。

ビデオ通話はいぶ違います。互いの表情も見えますし、視覚的情報もあります。耳元でささやくだけにはなりません。顔や体の動きの一部が見えますから、アセスメントや診断もずっとやりやすくなります。悪くないツールです。でも、これも警告を受けます。「通信状態によって、微妙なずれが生まれる」「画面が限られている」「空気感や匂いなど、空間を共有できない」などと言われるのです。電話の時もそうでしたが、新しい技術を用いた心理療法は、対面の心理療法よりも一段劣るものとされます。

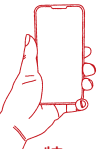
そんな話の一方で、内閣府の「ムーンショット計画」では「二〇五〇年までに、人が身体、脳、空間、時間の制約から解放された社会を実現」することが謳われています。「誰もが多様な社会活動に参画できるサイバネティック・アバター基盤」には、以下のようなことを挙げています (内閣府、二〇二三)。

・二〇五〇年までに、複数の人が遠隔操作する多数のアバターとロボ

ットを組み合わせることによって、大規模で複雑なタスクを実行するための技術を開発し、その運用等に必要な基盤を構築する。

・二〇三〇年までに、一つのタスクに対して、一人で一〇体以上のアバターを、アバター一体の場合と同等の速度、精度で操作できる技術を開発し、その運用等に必要な基盤を構築する。

通信の微妙なずれや画面の制限、空間の共有の問題などは、これが実現したら昔話になるでしょう。なにしろ、別々の場所にいる治療者と患者がアバターで実際に会うのです。でも、やっぱり、偉い先生に批判されるでしょう。たぶん「アバターは本人ではないからダメ」と言われます……全否定です。どこまで技術が進んでも同じことです。だから、電話だろうがビデオ通話だろうが話は同じなのです。私は電話もメールもビデオ通話も一通りやりますが、そういう話をすると、同僚から必ず「それで大丈夫なの」と言われます。それはいつも「どこか違う」のです。



こうした技術を用いた心理療法は、何と比べて「違う」のでしょうか。おそらくそれは、ある種の専門家が信じる「対面の正しい心理療法」の姿と比べて違うのです。新しい技術を用いたものが「違う」のは当たり前です。「正しい心理療法」が作られたときに、その方法はなかったのですから。でも、心理療法はいつの時代でも、新たな技術の発展とともにあります。対面の心理療法だって、交通機関の発達や経済発展があったからこそ生まれたものです。呪術の時代には対面しない治療法もありました。交通が発達したから「遠くの専門家のところに行く」患者が生まれたのです。

ものの見方を逆に見ましましょう。心理療法の側からビデオ通話を見るのではなく、ビデオ通話の側から心理療法を見るのです。ビデオ通話に初めて出会った自分を想像してみてください。何をしましょう。私ならそれで、誰かと通信します。そこにその技術があれば、私たちは誰かと通信するのです。相手は家族かもしれないし、心理療法家かもしれないし、あるいは遠くの国の見知らぬ相手かもしれない。電車があれば、私たちがそれに乗り込むのと同じことです。

いし、あるいは遠くの国の見知らぬ相手かもしれない。電車があれば、私たちがそれに乗り込むのと同じことです。

知覚心理学者のギブソン (Gibson, 1979) は、アフォーダンスという概念を提唱しています。それは、環境 (モノ) と人 (動物) との相互交流です。人がモノを使い、モノが人に使用させる方法は、それをデザインした環境と使用者との相互交流によって決まるといって考えられます。ドアの取手は、人がそれを引っ張る行為を可能にしていますが、それは、それが人に使用しやすくデザインされているからだけではありません。それが、それを見た人の引っ張る行動を誘発するからです。取手が「引っ張る人」を作り出すのです。

人は通信する生き物です。郵便があれば手紙を出し、電話があればそれをかけます。ビデオ通話があれば、それを使います。アバターがあれば、私たちはそれで誰かと会うでしょう。そういった人が生み出されたのです。その技術を前にした私たちは、電話の時よりも地理的制限を超えて、広く

人とかかわり、自分だけの特別な人を探し出そうとするでしょう。一九七〇年代にはいなかった人間です。ネット通信ゲームや婚活アプリの普及を見れば、それが地理的制限を超えて、自分だけの特定の人を探し出そうとする人間をどれだけ多く作り出したかはわかります。

ビデオ通信は、そうした欲望をあらさまに表現する患者や治療者を生み出したのです。患者は、地域を超えて自分だけの特別な治療者を探し出そうとするでしょう。治療者は、地域を超えて自分を求める可能性のある人を探そうとするでしょう。AI 自動翻訳機を通して、言葉を越えた心理療法をしている人もいるかもしれません。彼らがなぜそこまでするのかと言えば、それは会えない場所に住む言葉の違う人の中に、自分だけの特別な治療者がいるかもしれないと思うからです。

ミッチェル (Mitchell, 2002) は、ロマンスの感覚は西洋の近代化とそれが作り出した家族制度から生まれたと述べます。彼によれば、ロマンスティックな情熱の中心は「自分だけ

の特別な人」の感覚です。それは「最愛の人のような人は他にはいない。私たちはお互いのために作られた」(p.99) という信念です。この種の情熱は「中世社会から近代的な家族生活への移行の中で、ともに進化してきた」(p.100) ものです。移動手段の乏しい先史時代、狭くまわっていった人たちは「特別な人」の感覚をあまり発展させなかったのです。移動手段や通信技術の発展がその欲望を見えやすくしました。同時にそれは、それを喜ぶ人とそれに苦しむ人を生み出しました。まさに心理療法が扱うテーマです。新たな方法が良いの、悪いのと言っている場合ではありません。この方法でこそ見えやすくなる心の側面をとらえるチャンスです。

●参考文献

Aronson, J. K. (2000). *Use of the Telephone in Psychotherapy*. New York: Jason Aronson.
Gibson, J. J. (1979). *The Theory of Affordances*. In: *The Ecological Approach to Visual Perception* (pp. 119-135). New York: Psychology Press.
Mitchell, S. A. (2002). *Can Love Last? The Fate of Romance Over Time*. New York: W. W. Norton.

電話相談

デジタルネイティブ世代の若い人は、スマートフォンを通話機能としては使わない、「電話恐怖症（電話に出ることやかけることを恐れたり苦手意識を持っていること）」の人数が増えていると言われています。

一方で、自殺のニュースが報道されるたびに、「よりせいホットライン」「いのちの電話」「チャイルドライン」などの電話番号が必ず紹介されます。また、コロナ禍で対面相談ができなくなった時期には、電話相談が大いに活用されました。

現在、精神保健福祉相談、子育て支援相談、教育相談、妊娠・妊産婦

成蹊大学
岩田淳子

相談、産業メンタルヘルス支援相談、人権（子どもを含む）相談など、多様な領域と職種により「電話相談」が行われています。なお、電話相談では相談者を「かけ手」と称するところが少なくありませんが、本稿では「クライエント」と表記しています。

電話相談小史

電話相談の始まりは、みなさんがよくご存知の「いのちの電話」です。一九五三年に英国国教会牧師チャド・バラにより、孤独のなかで絶望し、自殺すら考えている人たちの

ために、「よき隣人（新約聖書）」として話し相手になる「befriending」という考えのもとで始まりました。日本ではドイツ人宣教師ルツ・ヘットキャンプ女史を中心として準備され、一九七一年に「東京いのちの電話（社会福祉法人いのちの電話）」を開設しています。現在では、すべての都道府県に「いのちの電話」が設置されており、日本いのちの電話連盟も結成されています。

いのちの電話の相談員は、市井の人々、非専門家であることが大きな特徴です。とはいえ、一年〜一年半の養成研修を受け認定されます。三六五日、二四時間（すべての地域が二四時間ではない）、月二〜三回程度、決められた時間帯を担当し、継続的な研修も受けています。東日本大震災の折には、被災された相談員が担当のために事務所いらしたというエピソードもあり、私も感銘を受けました。研修には専門家として臨床心理士がお手伝いさせていた聞いています。

一九七〇年代には、「エンゼル10番」「ダイヤルフレンド（西来

武治による仏教カウンセリング）」なども開設され、さらに一九八〇年代以降は公的機関に電話相談が次々と設置されるようになりました。

当初は、電話で相談やカウンセリングはできないだろう、との批判的な意見もありましたが、今日では臨床心理士も積極的に電話相談に関わっています。

電話相談の特徴

電話相談の特徴は、いつでも（即時性）、どこからでも（広域性）、簡単な操作で（親和性）、対面相談のように交通費や移動時間も省け（経済性）、未知のカウンセラーに会う心理的負担もなく、相談可能な点です。

だからこそ、今死のうとしている方への自殺予防、叱咤して泣いている子どもを傍に親御さんが相談できる子育て支援、安全を守ることが最優先の被災者支援などに活用されているでしょう。特にコロナ禍、さまざまな非対面相談を体験したカウンセラーは、クライエントにとって、

予約の手間や交通手段を使ってアウ
エーな「相談場所」に来ることがど
んなに負担であったかを理解するこ
とができたように思います。

電話相談はクライエントの体格、
服装、表情、顔色、身振り、雰囲気
などの視覚情報を得られませんが、
声のトーンや大きさ、調子、言葉遣
いや息遣い、間、声の文脈などから
クライエントとその状況を想像する
こととなります。実際会ってみたら
全然想像と違ったということは多く
あると思います。

カウンセラーも、ただ無言でうな
づいたり表情を変えてもクライエン
トには伝わりませんから、しつかり
声にすることが必要になります。

電話相談の困難と課題

あらゆる電話相談機関において特
徴的な困難電話があります。いたず
ら（特にセックステレホンと言われ
る類）、怒るクライエント（事務局
にクレームが入ることもある）、作
話（あり得ない内容や微妙に相談内
容を変えて辻褄が合わない）、多数

回通話者（毎日、一日に何回も架電
される方）です。多くの電話相談は
匿名かつ一回性を標榜しているため、
こうした困難が生じると考えられま
す。

性的な内容は相談しづらいからこ
そ電話する、とも言えますが、一回
の電話相談のみにて性的な問題に対
して治療効果を持つのは事実上不可
能です。「怒り」など強い感情的反
応も視覚的情報がない分、心理的距
離が近くなりやすい、カウンセラ
ー・クライエント双方に相手のイメ
ージが膨らみやすいという電話相談
の特徴ゆえと考えられますが、カウ
ンセラー等の心理的ダメージが強い
のも事実です。電話相談はクライエ
ント主導で「架電」も「切電」もク
ライエントに委ねられますから、作
話らしき内容に対してアセスメント
のために質問をすれば容易に「切
電」されます。多数回通話者は、対
面相談では「継続」相談という構造
があります。電話相談は「担当
制」ではない、また手軽さゆえに嗜
癖的に電話を利用するクライエント
も少なくないことが要因として考え

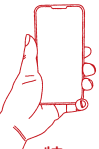
られます。

一回の電話相談であっても、孤独
や不安な気持ちを支え安堵感をもた
らす、気持ちや課題を整理する、有
用な情報や社会資源を提供すること
は可能です。しかし、継続的な直接
支援を行うことはできませんから、
自ずと限界があります。私見ではあ
りますが、現在の電話相談の良さは
残しながらも、今後は匿名性と一回
性にとられ過ぎずに、構造的な継
続電話相談や対面相談への実質的な
連携（すでに行っているところも少
なくありません）について積極的に
検討・実践していくことが、電話相
談の課題ではないかと考えています。

「今君電話」

二〇二一年からNHKのEテレで
「今君電話」という番組が不定期に
放映されていることをご存知でしょ
うか。お笑い芸人のカンニング竹山
さん（以下、竹山さん）が、SNS
で電話番号を公開して「どんなこと
でも話したいことがある人は電話か
けて」と呼びかけ、電話でのやりと

り場面（一部です）とその内容に関
連する豆知識によって構成される三
〇分番組です。私は放送開始前の準
備段階で、竹山さんに電話相談につ
いての講義を一〇回分担当し、番組
開始後は監修としての役割を担って
います。竹山さんが、ご自身のライ
ブで電話番号を公開して舞台上で話
す、ということをしており、それ
を見たNHKのディレクターが番組
にしないか？と声をかけたそうです。
SNS時代に電話？電話相談で番
組？と意外でしたし、電話を受ける
のは有名なタレントさんですから、
私たち臨床心理士の電話相談とはも
ちろん異なります。が、かけて来ら
れる方の話は本当にさまざまで、専
門家には届かないかもしれない本音
も垣間見られます。竹山さんは真摯
に聞いてくださっており、そのやり
とりには双方のリアルな感情が确实
に存在します。電話というツールだ
からこそその声の持つ力の大きさを改
めて感じさせられるのです。電話相
談は消えゆかず、確実に相談ツール
として利用され続けると思えてなり
ません。



メールだから出会える人、 聞ける声がある

— 支援を届けるメール相談

NPO法人OVA
清水幸恵

務に関わるようになりました。

メール相談の良さ

私はNPO法人で相談員として、二〇一四年からメールでの相談を受けています。私が大学生のときはメール相談というものを聞いたことはありませんでしたし、もともと、精神科の病院など、対面で話ができる場所での仕事をしていたので、初めてメール相談を知ったときは、「そんな対人支援の仕事があるんだ！」と率直に驚いた記憶があります。未知の分野のメール相談ではありませんが、顔が見えぬクライエントの声に耳を傾けたいという思いで、思い切って応募して、メールでの相談業

メールでの相談は、クライエントにとっては、相手の顔を見ずに反応も気にせずに話ができ、時間や場所の制約もなく、いつでもどこでも返信を送れる、少し手軽に連絡ができるツールだと思えます。答えづらいつことを尋ねられたときや気が向かないときは、答えないことや返信をしないということもできます。私達の相談活動では、匿名でも相談を受

けていて、身近な人には言いづらいことや、顔を合わせて相談しづらいなと思っていることを、話しやすい場になつているように思います。

メールという場での 人との関わり

クライエントの顔も年齢などもわからず、こちらの伝えたい一言一句が消さぬ限り残り、もしかしたら返信をもらえないかもしれないというなかでの関わりは、不安にもなります。対面のように、そのときのクライエントの状態に合わせて言葉を選んだり言い換えられず、クライエントの状況は刻々と変わっているかもしれない、伝えたい言葉をどう受け取られるかわからないなど様々な不安があります。

ただ、顔を合わせて話せる場に出会う場合と同じか、むしろそれ以上にクライエントを知りたいという気持ちがあわいてくるようにも思います。クライエントからの初めてのメールでは、これまでのことや今抱えているつらさを多く語ってくれることもあります。 「つらい」「助けて」と

いった一言、二言ということも少なくありません。なかには、苦しい状況を抱えるぶつけどころがないような怒りから、メールが送られてくることもあります。

誰にも言えずに抱えてきた気持ちを話してもらえように、ぶつけどころがないような怒りを感じるときも、「話せるところから、あなたの話を聞かせてもらえませんか」と言葉をかけていきます。「ここなら話せるかもしれない」「ここだったら気持ちわかってもらえる」と思ってもらえることが、関わりへの入り口と思います。

クライエントの語ってくれた内容だけでなく、文体、分量、行間、受信時間、メールアドレスなど様々な情報から、どんな思いや背景があつて、言葉にしてくれたのかを想像し、クライエントの抱えている問題を把握していきます。文字で直接的に表現されていなくても、クライエントの語るエピソードから性格、コミュニケーションのパターンが垣間見れたり、知的な能力やその人らしさなどをイメージしていきます。気持ち

を受け止めながら、クライエントの抱えている問題や思いについて問いかけていくことで、対話の場となつて、クライエントの気持ちを言語化できたり、整理できる場、そして抱えているつらさを和らげるためにできることを話し合っている場にもなつていきます。

メール相談を足がかりに 現実の場へと進んでいく

ただ、いつでもどんなときでも、あたたかいメールが返ってくることは、本当にクライエントのためになつていくのでしょうか。いろいろなことを話せる安心な場所として、あり続けることは、クライエントの抱えている問題の解決につながっていくのでしょうか。

私達とのメールのやり取りのなかで、気持ちに楽になつたり、問題解決の道を見つけてもう大丈夫と、こちらのメールを卒業していく方もいらっしゃると思います。一方で、メールで聞いているだけでは解決しえない問題も多くあり、クライエントの周りには友人や家族、先生、先輩や上

司に伝えていくことや、ときには心療内科や精神科、対面カウンセリグでの相談を勧めたり、自治体の相談窓口の相談を考えていくことも必要となつてきます。匿名性の高いメールだからこそ、聞ける声を受け止めながら、現実の生活で話をしていける人や場所での相談をしていけるように橋渡しをしていくことが大事なことと思つています。

たった一通のお返事でも、「気持ちを受け止めてもらえて嬉しかった」「返信を見て涙が溢れてきた」「メールをして返信が来ると、気持ちが楽になる」とクライエントが語ってくれることがあります。メールというツールでつながって、気持ちを受け止められているのだと思いません。寂しさや孤独を抱えたクライエントにとつて、気持ちを聞いてもらえたという体験が、次に相談しているという気持ちの後押しになっていくのだと思います。

メールでの文字だけの関わりで何がわかるのか、何ができるのかという疑問もあるかもしれません。メール相談はやり取りに時間がかかり、

得られる情報も限られます。対面では話を聞けるほうが、その場でいろいろなことを尋ねられますし、例えば、表情や仕草、声のトーン、着ている洋服など情報量がぐんと増えます。それでもメールで相談を受けるのは、相談することへの恥ずかしさや抵抗感、人に弱みを見せることへの躊躇や怖さがあつて、悩みをひとり抱えて苦しんでいるクライエントの声を聞ける貴重なツールだからです。

そして、メールでの関わりでも、クライエントの抱えるつらさや苦しみに寄り添い、伴走し、これからは一緒に考えていくことができます。メールの返信が来なくなることもあります。でも、「何とかやって行けそうです。もう大丈夫です」と私達とのメール相談から先に進んでいくお返事をもらったときなど、クライエント自身の力を感じる瞬間が大きな励みにもなつています。

これから

私が初めてメール相談と出会つてそろそろ、一〇年。世の中はどんどんと変わつて、コロナ禍を経て、Zoom や Skype を使ったオンライン相談やSNS相談が、学生相談室、心療内科などのカウンセリグ、自治体の相談窓口など、各所で行われるようになりました。世の中が変われば、人とつながるツールも変わつていくように思います。これからは新たなツールが出てくるかもしれません。

ツールは変わつても、クライエントを知りたい、関わりたいという気持ちを変わらず持つていることと、クライエントにとつて使いやすいツールで話を聞いていくという視点は心理士にとつても、大事なものになつてくると考えています。カウンセリグ室で待つているだけではなく、ハードルが高いクライエントの声を聞いて支援を届けていくためにも、いろいろなツールを用いて話を聞いていける心理士でありたいと考えています。

日本心理臨床学会第43回大会について

本誌「心理臨床の広場」は、高校生の方々をはじめとして、広く市民の方々に、心理臨床学を知っていただくための広報誌です。この心理臨床学の学術団体である日本心理臨床学会の会員数は、現在（2024年3月）、約2万9000人となっています。これは、心理学系の学会の中で最大規模の会員数となっています。日本心理臨床学会に、これほど多くの会員が集まるのはなぜでしょうか？ その答えは、心理臨床学の本質にあると思われれます。心理臨床学は、心の痛み、苦しみ

を抱える人を支援する心理専門職の実践の基盤となる学問体系であり、その実践の体験をもとに臨床の知が構築されていきます。つまり、心理臨床学は、社会で活動している心理専門職の一人一人が、現場で実践している体験に基づく研究や、実践に創成されていく学問なのです。一般に学術団体は、研究者の集まりです。日本心理臨床学会の場合は、全国に約190校ある心理専門職養成の大学・大学院に所属する研究者ばかりでなく、全国の医療・保健・

教育・福祉・司法・警察・産業・労働等の多様な現場で活躍する心理専門職もまた研究者なのです。この心理臨床学の研究者は、その実践に基づいた研究を報告し、心理専門職としての知識や技能を向上させるための研修の場として学会での活動を重要なものと考えています。心理専門職の資格として、日本では、この日本心理臨床学会が中心となつて1988年に立ち上げた臨床心理士の資格があります。この資格は、臨床心理面接（カウンセリング）と臨床心理査定（アセスメン

第43回大会実行委員長 吉川眞理

ト）、地域支援とともに、臨床心理学的研究を、その役割として掲げています。臨床心理士は、大学院修了を要件とし、5年間の資格更新制度を持つ専門職資格として、社会に広く認知されてきました。2017年に国家資格である公認心理師制度が発表し、臨床心理士の多くが公認心理師の資格を取得した一方で、教員、看護師、精神保健福祉士等、実践現場で心理的支援に携わっていた実践者が新たに公認心理師の資格を取得することになりました。そこで日本心理臨床学会は、心理臨床の実践を学びたい公認心理師を新たに迎えることになりました。こうして、全国の多様な心理臨床の現場で活動する心理専門職が積極的にこの輪に加わることで、大きな学会に成長していくことがわかります。その背景の一つには、心理臨床学が、心理専門職を生み出し、一人一人の心理専門職自身がその実践をもとに創成する学問であるということがあります。そして、もう一つは、おそらく心理専門職の業務が、何年のキャリアを積もうとも、生涯に渡

る研鑽とその実践成果の共有の場が必要とされる、非常に厳しい業務であるということが影響しているのではないのでしょうか。

日本心理臨床学会は、年に一度、会員相互がその実践や研究の成果を報告し、交流する学術大会を開催しています。心理専門職の実践は、この学問の発展のため、厳密な守秘義務のもとで心理専門職間で共有されず。そのため、この学術大会のプログラムの大部分は、会員のみ参加可能となっています。

今年も、第43回大会を以下の2部分に分けて開催します。

- 8月23日(金)～25日(日)の3日間の対面大会、於・パシフィコ横浜
- 9月20日(金)～10月17日(木)の28日間のWEB大会

これは、コロナ禍のなかで開催されたWEB大会には、遠方や子育て中の会員も参加しやすいという利点があり、オンライン開催継続への希望が多く寄せられたことによりです。

一方で、本年度の第43回大会は、コロナ第5類移行に伴って、人と人がリアルな場で討論し交流する本来の対面大会の3日間もしっかり充実させる設定となっています。

第43回大会のテーマは「一人一人の心が生きる社会をめざしてー機能する心理臨床とはー」です。まず「二人一人の心」という言葉には、社会の多様な人々の一人一人それぞれの心としっかり出会っていかうとする心理臨床学の基本姿勢が込められています。そして、「心が生きる社会」について考えてみましょう。お互いに心を配り合い、それぞれに与えられた役割を、心を込めて果たしていくとき、人々の心が通う、心が活気づく社会を実現します。心は、目に見えないのですが、その心の存在が生き生きと感じられる、そんな社会に向かうために、心理臨床は、どんな機能を発揮できるのでしょうか？ それを問いかけ、さまざまな可能性を探求していくプログラムが企画されています。

WEB大会では、様々なコンテンツがオンデマンド配信されます。ま

た、大会発表等と並行して、自主シンポジウムもこの期間にライブで開催されます。昨年度は21日間でしたが、昨年度のアンケートで寄せられた要望をふまえて、今年度は28日間に延長して開催することになりました。そのコンテンツのいくつかは、学会員以外の皆さんにも公開されます。

その一つとして、学会企画特別講演として放送大学・千葉大学名誉教授である家族社会学、生活保障論がご専門の宮本みち子先生をお招きして「子どもから若者へ一人一人の育ちを支援する社会に向けて」というテーマでの講演をお願いしています。宮本みち子先生は、内閣府子どもの貧困対策に関する有識者会議座長をお務めになり、社会学の立場から若者の生活保障について発信しておられます。日本の次世代の育ちのために、心理専門職が果たしうる役割について考える機会をいただきたいと思います。願っております。もう一つの企画として、昨年に引き続き、ウクライナの心理専門職をお迎えして、長い戦争をくぐり抜けるウクライナにおけ

る心理的支援のニーズやその実践についてご報告をいただく予定です。その他にも、災害支援の心理実践についての企画が進行中です。このような講演、シンポジウムについては、オンラインでの一般公開を検討しています。

また、高校生対象として心理臨床学を紹介する企画もオンライン公開予定です。詳しくは、日本心理臨床学会のホームページ（一般社団法人日本心理臨床学会 <https://www.jcp.jp/>）をご覧ください。

本年度も、会員の貴重な実践をもとにした研究報告の共有が、それぞれの心理臨床、心理臨床学の発展につながる機会が生まれることを願い、大会実行委員、理事一同、力を尽くして準備を進めてまいります。



日本心理臨床学会

てんてん ココロの広場に行く



その15

ほそかわ てん てん
細川 貂 々



てんてん
てんてん
てんてん

作品読んだら
男だと思った



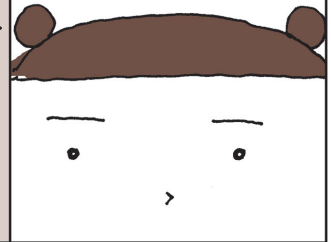
そーです
かー

てんてん
てんてん

細川貂々という
名前が男っぽい
から



私はよく
男に
まちがわれ
ます



てんてん
私のファンに
なってくれました

新聞にのった
インタビュー記事
読んで
この人の中身は
男だと確信
したよ

私の友だちの
お父さんは



どっちでも
いいかなと
思ってます



正直言って
私は自分が
男でも女でも

細川貂々(ほそかわ・てんてん) 1969年生まれ。セツ・モードセミナー卒業後、漫画家、イラストレーターとして活動。「ツレがうつになりまして。」が大ベストセラーに。「それでも母が大好きです」、「わたしの主人公はわたし」、「日帰り旅行は電車に乗って 関西編」、「生きづらいでしたか?」など著書多数。

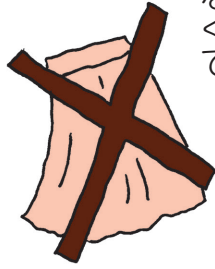
友だちは

私は
ノンバイナリー
だから

と言います



友だちは性別は女性
ですが、スカートはいたり
できなくて



書類に男か女かマルを
つけなきゃいけない時
すごく困るそうです

男・女



そついう話を
きいた時

そついえば
私は...



宝塚歌劇の変身スタジオで
男役のメイクをした時



カッコいい

ステキ

やたら周りにウケてたし

家では自分のことを

オレお茶
がみたい

「オレ」と言ってます



最近はスカートや
ワンピースの下に
ズボンをはける
ファッションがOKに
なったので

いい時代に
なったなあ



と安心してます

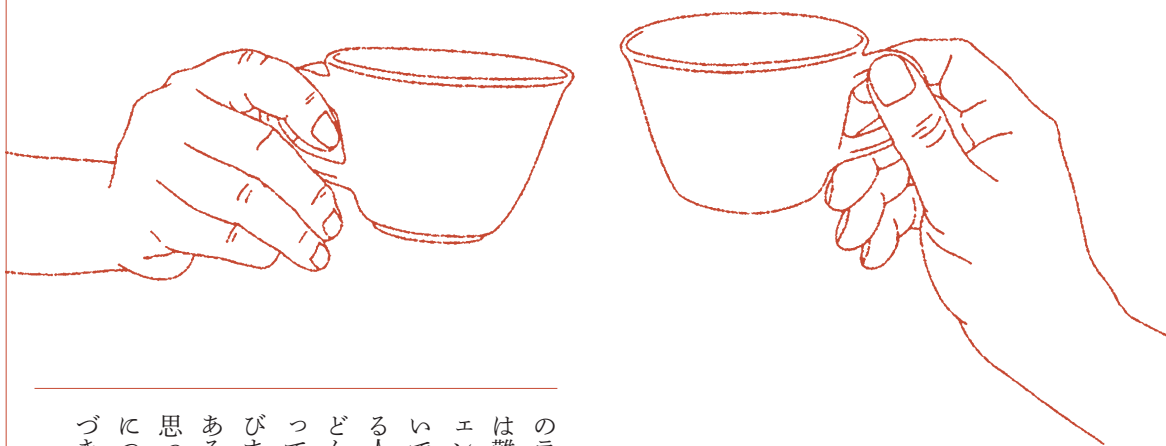
LGBTQ+

カテゴリーに分けたくないけど、
知りたいよね？

LGBT、LGBTQ、LGBTQ+、「アルファベットがどんどん増えてる！」「LGBTは聞いたことあるけど…あとのQはわからない」。そんな発言を聞くことがよくあります。あるオンライン調査では一般の方の約90%の人が「LGBT」の言葉を知っていましたが、他の人に説明できるほどではないという回答もありました。

このコーナーでは、「性の多様性」として表現される様々な性の在り方についてわかりやすく説明しています。LGBTについても、言葉としては知っていても現状はどうなっているのか、また、どのようなことで悩んだり、困ったりしているのか、あるいは、誤解されていることはあるのか、LとBとの違いやLGBTとTとの違いは何か、などについてわかりやすく説明しました。また、LGBT以外のAセクシユアル、Xジェンダー、Queer、Questioningなどについても知ってもらいたいと思います。

性は多様なので、LGBTQなど



のラベルやカテゴリーに分けることは難しいし、「あなたはトランスジェンダーね」なんて決めてほしくないでしょう。でも多様な性とよばれる人の中にはどんな人がいるのか、どんな多様性があるのかについて知ってもらいたく、今回のテーマに選びました。自分にも多様なところがある、気がつかなかったし当然だと思っていた性別や性役割のことなどについて当然じゃなかったという気づきがあるかもしれません。

鳴門教育大学 葛西真記子

女性を好きな気持ちに気づいたけれど、まだ誰にも話していない、あなたへ。もしあなたが、自分がレズビアンである事を受け止めるにいたり、他の人と会うための一歩を踏み出せずに悩んでいたとしても、それはあなたのせいではありません。

見えにくい存在、周りからも自分でも

LGBTという言葉は知られるようになってきましたが、レズビアン、女性の同性愛者が身近にいるという人は、今でもまだ少ないでしょう。日本の社会の中で、レズビアンは存在しないもの、あるいは過剰に性的なイメージとして扱われてきた面があります。その状況で暮らしていく中で、当事者自身も、自分のセクシユアリティに気づく前から、レズビアンに対するネガティブなイメージを自らの価値観として取り込んでしまっています。そのため、女性への恋愛や性愛を自分のものとして受け止め

にくかったり、レズビアンの人たちが現実的、日常的に生活しているイメージが持ちにくかったりするのです。

出会い、語りから生まれるもの

SHIPでは女性が好きな女性が集まり、話せる場を一六年前から毎月開催しています。そこでは、自分以外の当事者と初めて会う方もよく来られます。実際に会って話すと「こういう気持ちは自分だけではなかったんだ」「自分以外にも本当にいたんだ」と実感し、日頃話せなかった自分の気持ちや体験を共有する事ができます。同じレズビアンの人と出会い、思いを共有する事で、孤立感が減り、安心感が得られる、そうした場面で体験される事は、一六年前も今でもあまり変わらないようにみえます。

SHIPのようなコミュニティで自分を語る体験をする人もいれば、SNSでつながった相手に自分の事を伝える人もいます。またカウンセ

ラーに対して、初めてセクシュアリティを打ち明け、自分の気持ちを整理していく人もいます。レズビアンである事で生じる悩みや生きにくさを話す事もあれば、好きな人の話題で盛り上がりたり、恋人と過ごした楽しい思い出を話す事もあります。それが悩みや相談でも、楽しい事や嬉しい事でも、女性を好きな事を隠さずに自分自身を語る時に、相手との関係性の中で、レズビアンである私を形作っていくのです。

私たちはここにいる

身近には感じにくいかもしれませんが、インターネットが普及するよりも前から、レズビアンの人たちは同じ仲間とのつながり、コミュニティを作り、自分たちの言葉や人生を紡いできました。この社会で「女性」と「同性愛」という二つのマイノリティを生きる事、そこから生まれる悩みや生きにくさに対して、思いを共有し、それを乗り越えていく

ための知恵を出し合ってきたのです。レズビアン、女性が好きな女性たちも多様な方向があります。同性のパートナーと生活する人、子どもをうみ、育てる人、友人や仲間とのつながりを持って生きていく人。そこには、一人一人の多様な生き方があるのです。

様々な人と出会い、語り合う中では、共感だけではなく、自分と異なる感じ方や考え方にふれ、違和感を持つ事もあるかもしれません。しかしそれもまた、レズビアンである「私自身」を、より深く、豊かに形作るきっかけになる事でしょう。

まだ会ったことのない、あなたへ

いつか時が満ちて、自分の事を誰かに話してみようと思う日が来たら、同じ仲間と会ってみようと思う日が来たら、あなたの話を聞かせてください。レズビアンとして生きるあなた、あなただけの話を聞かせてもらえる日が来る事を待っています。

ゲイ男性と内なるホモフォビア

県立広島大学 松高由佳

模擬事例です。サトルさん（仮）は一九歳のゲイ男性です。専門職を目指して短大に通っていたところ、ある教員から強く怒られることが続きました。抑うつ状態となり、通学が辛くなってカウンセリングに訪れました。このいきさつを聞く限り、その教員の彼に対する言動は、かなり理不尽なものに（カウンセラーには）感じられました。一方、サトルさんは自分だけを責め、落ち込んでいました。また、短大の友人から自分がどう思われているのか、強い不安があることも話されました。

内在化されたホモフォビア

サトルさんを苦しめていたものは何だったのでしょうか。個人には様々な背景があるものですが、私ここでお伝えしたいのは「内在化されたホモフォビア」の影響です。ホモフォビアとは、同性愛者に対する嫌悪感、敵意など否定的な感情のこと、当事者の周囲（非当事者）にだけ存在するものと思われがちですが、実は（多かれ少なかれ）当事者の中にも時間をかけて刷り込まれていきます。それが「内在化されたホモフォビア」です。内在化されたホモフォビアが強い場合、ゲイ男性の自尊心の低下や、対人関係上の不安、孤立感がつながっていきます。そうした状況が長く続くと、精神的健康

を崩してしまうことも考えられます。サトルさんは、来談当初は自分自身を責める気持ちが強く、対人関係で不安を感じやすい状態にありました。こうした背景の一つに、内在化されたホモフォビアがあったのではないかと思えます。しかし、ゲイであることを含め自分のことについて、安心して表現できる体験を重ねたことで、自分の「内側」に向かうネガティブな感情が和らぎ、より自分らしい対人関係を求めて「外側」に働きかける動きにつながったのかもしれない。そして、はつきりと怒りを言語化して表出できたことは、内在化されたホモフォビアの影響からの回復を意味していたとも考えられます。

内在化されたホモフォビアへの取り組み

もし、あなたがゲイで、自己否定感や自責感が強くて辛くなったときには、できるだけ安心してできる仲間や

コミュニティ、カウンセラーにつながることで、内在化されたホモフォビアを和らげられる可能性があると思います。地方では、最寄りのコミュニティが見つけれないこともありますが、もしもありませんが、最近ではリモート相談を行っている窓口も増えています。アプリの発達で、当事者同士が気軽に出会えるようになってはいますが、ほかの当事者との交流経験が少ないうちは、ゲイあるいはLGBTQ+へのサポート提供を明示している団体のコミュニティとつながる方が安全だと思います。

最後に、当事者、非当事者という分け方もあまり好きではないのですが、これは非当事者の大きな課題です。「ホモフォビア」が社会にはびこっているからこそ、それが当事者の中に「内在化」されてしまうのですから、そもそもホモフォビアを低減させるべく、非当事者は何ができるのか考え、取り組むことが大切です：一緒に考えていきませんか？

非単性愛というマイノリティ

LGBTという言葉は広く知られるようになったが、「B」であるバイセクシユアル（両性愛）が中心的な話題になることは少ないかもしれない。そんなバイセクシユアルは一人〇〇人に二〜三人程度存在すると言われている。

性的指向におけるマイノリティはゲイ・レズビアンがよく知られている。それらの人たちはホモセクシユアル（同性愛）であると同時に、単一の性別にのみ指向性が向くという意味で単性愛と特徴づけられる。バイセクシユアルは男女の両方に性的な関心や欲求を抱く指向性である。男女だけでない性別を含めて性的関心に向ける指向性であるパンセクシユアル（全性愛）と同様に非単性愛者としての世界を生きている。

単性愛という点で、ホモセクシユアルはヘテロセクシユアル（異性愛）と同じくマジョリティであり、バイ／パンセクシユアルは、同性愛

的指向と同時に非単性愛という二重にマイノリティ性を抱える存在といえよう。

非単性愛の生きる世界とは？

バイセクシユアルといえども同性／異性のどちらを強く指向性として持つのかはかなり個人差があり、必ずしもそれは五・五ではない。同性／異性に向く指向性の強さは流動的な場合もあれば、固定的な場合もある。さらに、バイセクシユアルの人々の望む関係性の指向性もさまざまであり、同性／異性と同時に親密な関係を持つポリアモラス（複数愛）な当事者もいれば、そうでない当事者も多い。一貫として両性への関心を抱いている人もいれば、ホモセクシユアルやヘテロセクシユアルとしての自己を結果的に確立する人も、自身の模索の過程の中でバイセクシユアルの状態を一時的・間断的に経験する人もいるのである。

バイセクシユアルの人たちや状態

や体験は、橋のようにホモセクシユアルとヘテロセクシユアルの間に横たわりグラデーションを紡いでいるといえよう。バイセクシユアルの人々の生きる世界は実に多様である。

単性愛に分断されるグラデーション

しかし、世界は断絶を抱えている。日本では、パートナーの性別により社会的な自由や権利・法的保障の範囲がかなり異なる。バイセクシユアルは分断されたヘテロ／ホモの世界の間を自分自身の実存や居場所を求め、あるいは、パートナーの性別に応じて行き来することになる。パートナーが同性であればホモセクシユアルへの偏見に晒され、パートナーが異性であればヘテロセクシユアルとして扱われ、バイセクシユアルとしての個人や体験としての連続性は容易に不可視化されてしまう。

また、ホモセクセシユアルの生きにくさゆえに、多様なバイセクシユアルのあり方が「ホモ／ヘテロどつ

ちつかずの都合の良い存在」「ヘテロの一時的な気の迷い」「同性愛を受け入れる覚悟がない」などとLGBTのコミュニティの中でも揶揄されることもある。マイノリティながらマジョリティとしてのポジションを選べてしまうことの罪悪感や、「ホモ／ヘテロどちらのコミュニティにいても「居場所がない」という孤立感バイセクシユアル当事者からよく語られることである。臨床場面ではそのような「彷徨うバイ／パンセクシユアル」とよく出会う。

マイノリティの中でさらに孤立する、そのような体験がメンタルにプラスに働くことはまずない。

バイ／パンセクシユアルの人々がホモ／ヘテロのコミュニティの間で二者択一を迫られ、彷徨うことなく、辿り着いた場所や選んだパートナーとのびのびとその人らしいあり方で暮らせるとしたらそれは、ホモ／ヘテロの分断のない世界であろう。

トランスジェンダー

明治大学 佐々木掌子

「トランスジェンダー」とは何でしょうか。実は多義的で、話者や文脈によって指す内容が変わることがあります。なぜそうしたことが生じているのか、この言葉の持つ歴史を簡単に振り返ってみたいと思います。

「トランスジェンダー」という言葉は、「トランスセクシュアル」という外性器の手術を伴う性別越境を意味する言葉と区別するために、外性器の手術を伴わない性別越境を示す形容詞として当事者が使用し始めた言葉でした。一方、「トランスセクシュアル」は、WHOの国際疾病分類に二〇二一年まで組み込まれていた精神疾患概念で、和訳は「性転換症」です。「トランスジェンダー」は、トランスセクシュアルが内包する医療概念とは全く文脈の異なる用語として、他者既定ではなく自己規定概念として、さらにはプライドを込め自分たちを呼びならわす言葉として使用されてきました。

しかし、この言葉は徐々に外性器

の手術を伴わない性別越境から、性別越境に関わる包括的な概念へと変容していきました。二〇二二年に公表された世界トランスジェンダー健康学会 (World Professional Association for Transgender Health, WPATH) の作成するケアのガイドラインでは、トランスジェンダーを「出生時に割り当てられた性別から典型的に期待されるジェンダー・アイデンティティやジェンダー表現ではない人々を描写するときに使用される総称」と用語解説しています。トランスジェンダーには、トランスセクシュアルもクロスドレッサー（異性装）もノンバイナリーもXジェンダーも、あらゆる非典型的なジェンダーが含まれることが想定されることになりました。これにはおそらく政治的・社会的連帯を示すためのLGBTという用語がよく使用されるようになったことも関係しているでしょう。LGBTのTは、トランスセクシュアルではなくトランスジェン

ダーだとよく紹介されます。こうした「総称としての」トランスジェンダーという言葉に対しては、受け入れる人、納得がいかない人、拘泥しない人、さまざまな立場があります。そのため、話者の真意を問わないとどういった状態を指すのかわからない用語となり、文脈の理解が欠かせなくなりました。

医療概念である「性別違和」や「性別不合」、あるいは今は使用されなくなった「性同一性障害」や「性転換症」は、診断概念として他者が判断するための用語ですが、トランスジェンダーは、当事者が自己定義のために使用する「自分たちの言葉」です。つまり、それぞれの人がそれぞれに定義をするため、言葉の持つ中身が一樣でないのです。Xジェンダーやノンバイナリーの人の中には、自己をトランスジェンダーではないとする人もいればトランスジェンダーであるとする人もいます。「出生時の性別のまま暮らしている

けれど実はトランスジェンダー」という人もいれば「性別に違和感はあるけれど社会的に性別移行はしていないのでトランスジェンダーではない」という人もいます。

トランスジェンダーという用語は、当事者が自己を表現する概念を模索する中で培われてきました。上述のWPATHのガイドラインでは「現在使われている言葉が今後変わっていくかもしれない、という言葉の変化について認識することが議論された」と明記され、用語の意味や使われ方がこれからも変わっていくことへの自覚を促しています。

私が学生の頃に言われた言葉があります。「ゲイやレズビアンはわかるけど、Aセクシユアルは本当にいるのかも疑わしい」。それを聞いて、Aセクシユアル当事者は『いないもの』として扱われる苦しさをより強く感じていたのでは？と思ひ、Aセクシユアルに焦点をあてた研究をはじめました。

Aセクシユアルとは？

Aセクシユアルは性的指向の一つで、『他者に対して性的欲求を抱かない』と定義されることが多く、おおむね人口の1%に当てはまるといわれています。性的指向なので、コンプレックスや病氣、トラウマ、宗教等によるものではなく、自身で決断したことでもありません。また、日本では『恋愛感情と性的欲求を抱かない人』を“Aセクシユアル”、『恋愛感情を抱くが性的欲求は抱かない人』を“ノンセクシユアル”として呼び分ける場合もあります。

Aセクシユアルを自認する過程

私は当事者へのインタビューを通して、Aセクシユアルを自認する過程を研究しました。そのなかでは、学生時代の周りが恋愛や恋人に興味を持ち始める時期に違和感を覚え、その後自身のセクシユアリティを探索していくうちに『Aセクシユアル』を知り、自認に至るケースが多かったです。特徴としては、多くが大学生以降の比較的遅めの時期に自認していること、セクシユアリティを探索する期間が長い、あるいは「今のところはAセクシユアル」と探索しつつも折り合いをつけている場合があることがあげられます。また、異性に恋愛感情や性的欲求を抱かないことで、同性愛者かもしれないと思うケースもありました。これには、Aセクシユアルを知る機会が少ないこと、Aセクシユアルが『ない』ことを定義している、不確定なセクシユアリティであることが関係していると考えられました。

Aセクシユアルの生きづらさ

当事者が語ったのは、『理解してもらえない』ということでした。他者と恋愛・性的な関係になるという話題は、世代問わずあたり前のこととして語られます。その中で当事者は疎外感・劣等感を覚えたり、「自分はおかしいのかもしれない」と思い悩んだりすることがあり、たとえばカミング・アウトをしたとしても、「良い人紹介してあげようか?」「まだ出会ってないだけだつて」等と望んでいない理解をされることも多いです。また、恋愛・性的な経験がないことで『未熟な人』等という印象を持たれてしまうことも少なくありません。加えて誤解されやすいと感じたことは、他者に恋愛感情や性的欲求を抱かないことと、一人で生きていきたいと思うことは、必ずしもイコールではないということです。「誰かと一緒に生きていきたい」と発言した当事者は一定数おり、精神的・経済的に誰かと支え合いたいと

願いつつも、特別なパートナーになるためには多くが恋愛・性的接触と切り離せない関係であることに苦悩しています。

Aセクシユアルにも様々な人がいます。恋愛話を聞くことが好きな人、恋愛作品に嫌悪する人、恋人が欲しい人、Aセクシユアルを受け止めている人、変われるなら変わりたいと願う人：セクシユアリティの受け止め方、生きづらさの感じ方、どれも人それぞれです。今後、Aセクシユアルが一つの性的指向として広く認知され、様々な生き方の選択ができるようになることが望まれます。そのためには、まずAセクシユアルについて知ることが、当事者への誤解や生きづらさを少しでも減らすことに繋がるのではないのでしょうか。

●参考文献

今田千尋・葛西真記子(二〇二〇)「Aセクシユアルを自認する過程——インタビュー調査から」日本心理臨床学会第三十九回大会発表論文集、三七頁

Xジェンダー

Xジェンダーとは

「性別二元論」という言葉を聞いたことはあるでしょうか。この世には男性あるいは女性という二つの性別しか存在しないという考え方のことを指します。戸籍やトイレ、スポーツなど、あらゆるものが男女に二分されるのが当たり前になっているため、こうした考え方に名前があることに驚いた人もいるかもしれません。

Xジェンダーとは、この性別二元論にとられない性自認をもつ人のことを指します。具体的には、男性と女性の間の性自認である中性、男性と女性の両方の性自認をもつ両性、特定の性自認をもたない無性、性自認が変化する不定性といった細かいカテゴリーがあります。なかにはホルモン治療や手術をして身体の性別を変えることを望む人もいれば、その必要性を感じない人もいます。Xジェンダーと一口に言っても、色々な人がいるのです。

Xジェンダーという言葉は、一九

九〇年代に日本で使われはじめたものです。方程式で分からない数を“X”と表したり、未来の災害や事件が起こると予想される日を“Xデー”と呼んだりするように、未知のものを指すときにXという文字が使われることから、Xジェンダーと呼ばれるようになったといわれています。近年は書籍やテレビ番組でも取り上げられるようになり、Xジェンダーに関する研究も増えつつあります。

Xジェンダーを自認する過程

私は、Xジェンダーの人たちへのインタビューを通して、Xジェンダーを自認する過程について研究しました。そのなかで、Xジェンダーの人たちはXジェンダーであることを自認するまでに、同性愛やトランスジェンダーといったさまざまなセクシュアリティの中で、自分のセクシュアリティを探索していたことが分かりました。しかし、いずれのセク

シュアリティにも自分は当てはまらないという違和感を覚え、自分自身をうまく表現する言葉を見つけられずに悩む時期を経験します。

そしてあるときXジェンダーという言葉に出会い、その言葉の良さに気づいたりしつくりくる感覚を抱いたりすることで、Xジェンダーを自認するようになります。Xジェンダーの人たちにとってXジェンダーという言葉は、それまで表現のしようがなかったセクシュアリティをもつ自分を、そのまま包み込んでくれる言葉であるといえるでしょう。

また、Xジェンダーの人たちのなかには、Xジェンダーを自認したあと、Xジェンダーという言葉にもとらわなくなり、「自分は自分なんだ」と考えるようになった人もいました。Xジェンダーの意味の多様性に触れ、自分にとってのXジェンダーの意味を考えるうちに、セクシュアリティに縛られずにひとりの人間として生きていこうとする考え方に至ったの

かもしれません。

Xジェンダーの可能性

Xジェンダーという言葉がもつ意味の幅広さや曖昧さから、「結局Xジェンダーとは何なのかよく分からない」という人も多いと思います。これからXジェンダーについての知見がより深まれば、その分からなさもいくらか解消されるかもしれません。しかし、そのよく分からなさがXジェンダーという言葉の良いところのような気もしています。Xジェンダーのあるべき姿というものはなく、それぞれがXジェンダーという言葉に自分の思いを託して使っているのではないかと私は考えています。“X”という文字が表すとおり、Xジェンダーの可能性は未知数なのです。

●参考文献

幸津拓磨・葛西真記子（二〇二三）「Xジェンダーを自認する過程——インタビューを通して」日本心理臨床学会第42回大会

「LGBTQ」の「Q」は「クィア」と「クエスチョニング」という二つの頭文字がとられたもので、両者は重なることもありうるが、同義ではない。本項では、それぞれの用語について説明を加えながら、「LGBT」でなく「LGBTQ」であることの意味について解説する。

あらかじめことわっておくが、この限られた紙面の中で「クィアとは何か」「クエスチョニングとは何か」を説明することは困難である。非常にわかりにくい言葉だ。むしろその「わかりにくい」ところが、「クィア」「クエスチョニング」を理解するための要点といえる。

「クィア (Queer)」は本来、「変態」「奇妙」「風変わり」を意味し、男性同性愛者やトランス女性を侮辱的に指し示す言葉として用いられてきた歴史をもつ。世の中には、「異性愛であること」「シスジェンダーであること」を当然とする社会通念や、規範性がある。この規範からこ

ぼれ落ちた人々が元来「クィア」と呼ばれ、社会的に差別を受けてきた。その意味では、日本語の「ホモ」や「オカマ」に近いかもしれない。

にもかかわらず、今日では、差別されてきた側が自ら「クィア」を名乗るようになった。蔑称であることを逆手に取り、「主体的かつ肯定的に名乗る言葉」として自ら引き受けることで、蔑称としての「クィア」を無効化させようとしてきたのである。

したがって、「クィア」という言葉が用いられるときには、性に関する規範性や社会通念、カテゴライズされたイメージに対する抵抗・批判のニュアンスが含まれる。これまでの抑圧されてきた、規範的でない性のありよう、流動的な性のありようすべてがクィアの照射範囲になりうる。何をもちてクィアとするか、その境界線もまた、定まっていない。クィアには個人差があり、そこに「わかりやすさ」はない。わかりにくくて

よいのである。

一方、「クエスチョニング (Queering)」は文字通り、「自分の性自認や性指向がわからない、はっきりしない状態」を指す。たとえば、「男性として生まれ、男性を好きになるが、男性として男性が好きなのか、女性として男性が好きなのか、わからない」「女性としての自分に違和感はあるけれど、男性として生きていきたいのかはよくわからない」といった例が挙げられる。特に、アイデンティティ形成段階の青年期までは、こうした悩みを抱える当事者が多く、のちに明確なセクシュアリティが定まる人もいれば、そうでない人もいる。

ここで臨床上留意しておきたいのは、「はつきり決めなくてもよい」ということである。成人以降も自らのアイデンティティを模索し、様々な体験を通して都度更新していくのと同じように、性のありようも微細に更新されることがありうる（流動

的な性のありようを表す「セクシュアル・フルイディティ」「ジェンダー・フルイド」といった言葉もある。クエスチョニングもまた、「わからないこと」を肯定する言葉であると言える。

「LGBT」に「Q」が加わることによって、「L/G/B/T」(あるいはヘテロセクシュアル・シスジェンダー)というカテゴライズの境界が実はあいまいであり、他者のセクシュアリティは本来わかりにくいものである、ということを教えてくれる。わかりにくいことを、わかつた気にならず、わからないまま連帯することを志向したのが、「LGBTQ」という表現なのである。私たち臨床家は、どんな相談者に対しても、まずはどんなセクシュアリティであるか「わからない」前提で、フェアな態度をもって支えていくことが求められている。

の国がまるで実際そこにあるかのような、まさに“Diversity & Inclusive”を随所で体感できる学会でした。日本でMBTIを倫理的かつ正しく普及させられたら、他者と比較しがちな見方から解放され、自我の確立が促され、真の多様性の体感値があがり、人間関係の諸問題の解決になりうると考えていたので、学会でのそれらの体験が、筆者の決意を後押ししてくれました。

日本版 MBTI

単独で渡米し、MBTIを取り扱う資格を取得、日本人ではじめての有資格者となった上で、日本版MBTIの開発計画とプロモーションの企画書をCPP社に持ち込み、受理されます。その後、国際MBTIトレーナー（Qualified Userの育成および資格付与の講座の開催ができる資格）として訓練を受け、前出のQueen博士の教育分析とSupervisionも受けながら、約10年かけて、日本の文化、日本語の特異性、日本人の自我や個の確立のありかたなどを考慮した質問項目とフィードバック手法が完成。2000年によく日本版MBTIの出版と倫理的普及のための国際規格の日本人向けトレーニング講座を開始。自我の確立がゆっくりである日本人へのフィードバックは、より倫理的でスキルも高くないと、受検者を路頭に迷わせてしまう危険があるため、どの国よりも厳格な倫理規定と評価基準を設定、第三者による倫理委員会も設立し、倫理違反が疑われる有資格者には再教育を施すなどして、とにかく「受検者の利益のために」をモットーに、地道な普及してまいり、現在日本でも延べ3000人も有資格者が誕生しています。

タイプ論への誤解を未然に防ぐ工夫

MBTIは類型論の検査ですが、“認知スタイル”をタイプと呼称し、かつHighly Individualという点も重視したメソッドですから、いわゆる類型論とは一線を画します。しかし「タイプ」という言葉は決めつけや型にはめるようになりがちなので、日本では「タイプ」を「こころの利き手」として紹介してきました。誰もが二項対立の両方とも持ち使っているが、どちらかというとならで当たり前につかっている心が「こ

ころの利き手」。一方あえて使っている心や使ったときにエネルギーを消耗する心が「利き手でないこころ」です。そして利き手だからといって字が全員上手ではないのと同じ、「利き心」を上手下手という視点で捉えることはできません。また同じ「利き心」であってもその「利き心」と関連する特性や能力の習得レベルや表現の方法には個人差がありますから、同じタイプが全く同じ性格ということもありません。ネットの声を見る限り、そこがやはり誤解されているので、痛恨の極みです。

本来のMBTIは、自分のこころの利き手を知り、その強みと課題と対峙し、熟達する指針と、利き手でない方の心の開発の指針も得て、自分と異なる利き手を持つ人への理解も深め、認知の成熟を促すものです。またMBTIは“個性化の過程”のためのタイプダイナミクスの分析もできるので、故に自分の深いところの分析が継続的に可能で、心の羅針盤となるメソッドです。

VUCAの時代に不可欠な自己理解

今回のブームは、実は若い人たちが「自分を知ることの大切さ」に気づき始めた表れではないかと考えています。だからこそ誤った自己理解が促進される危険がある「妥当性の検証がなされていないかもしれない」無料の16PTをMBTIだと信じて受けられてしまっている現状は、力不足を痛感しています。軽い気持ちで受けたとしても、ISTJと一度“診断”されたりすると、確認プロセスが生じ、徐々に自分を“ISTJ”のほうに近づけようとするのがあり、結果自分を見失うこともあるからです。

自己分析は、信頼できる第三者と共にする作業であることに気づいてもらい、世界各国で信頼されている本来のMBTIと有資格者に出会うか、信頼できる臨床家に出会い、VUCAの時代だからこそ自分たる所以を確立し、多様性から学ぶ視点と、成長のための羅針盤を持ち、自信をもって歩まれますことを願って止みません。

®MBTI and Myers-Briggs Type Indicator are registered trademarks of the Myers & Briggs Foundation in the United States and other countries

「自己理解」を真剣な作業として認識するために、 本来の国際規格MBTI®を

一般社団法人日本MBTI協会代表理事
臨床心理士 米国認定MBTIマスタートレーナー
東京大学大学院医学研究科、京都大学大学院医学系研究科非常勤講師

園田由紀

若年層に〈MBTI〉ブーム現象

昨年からZ世代を中心とした若年層で〈MBTI〉ブームが巻き起こっているのをご存じでしょうか。しかし多くが〈MBTI〉と思って受けているのは、ネット上で無料提供されている16 Personalities（以下16PT）という「性格診断テスト」で、MBTIとは似て非なるものです。この16PTは、行動特性論のBig Fiveを作り直し尺度化したものですが、妥当性のデータ公表を拒否し続けている「テスト」です。しかし16PTの結果はMBTIのオリジナルのタイプ表記（例：ISTJやENFPというMBTIの指標の頭文字の組み合わせた表示法）をそっくり流用しているため、手軽に受けられる無料の“MBTI”と思ってしまったようです。

MBTIとは

C.G. ユングは無意識の探求者としてよく知られていますが、無意識を探求するにあたり「意識」をこそ深く探求した人でもあります。かれがIndividuationをたどる第一歩として書いたのが『心理学的タイプ論』です。このユングの『タイプ論』に基づいて、「性格」を「質」と「カテゴリー」でとらえ、国際規格のフォーマルアセスメントとして半世紀以上前に研究開発がなされ完成されたThe MBTIという二者択一の質問項目からなる質問紙法の性格検査があります。米国から普及し、現在40カ国語以上の翻案版が出版され世界で最も使用されている心理検査の一つです。MBTIとは、Myers Briggs Type Indicatorの略で、米国人の親子MyersとBriggsがユング本人の許可を得て、1923年から約20年の開発過程を経て、ユングが提唱した心的態度と知覚と判断の心的機能、そしてMyersらが見出

したもう一つの心的態度を加えた4指標に基づく質問項目を開発。その後心理検査の学者McCaully博士やユング派臨床心理学者Quenk博士らの尽力によって膨大なデータによる信頼性と妥当性を確保し、1942年に初版を出版。今日にいたるまで質問項目の見直しは定期的に行われ、妥当性の研究はUpdateされ続けています。

そのMBTIが世界各国で信頼を得てきた理由に、100%受講生のために開発されたメソッドだからでしょう。MBTIは、回答結果はきっかりとして扱い、そこから受検者本人が自分の回答結果に本来の自分が表れているのかどうかを、有資格者（MBTI Qualified User）と検証するプロセスを最も重要としています。受検者が有資格者との対話や演習を通じ、理論と自分の実際を結び付けながら体験的に気づきが得られ、多くの演習を通じて他者理解も深まるしくみにもなっています。

なぜ有資格者を介するのか。それは、人は自分のタイプ（認知スタイル）を通じて自分のこと含め、他者、ものごと等の“世界”を認識しているので、自分だけで客観的に自己分析をするのは限界があるからです。

そのため有資格者の資質とスキルが非常に重要なメソッドともいわれており、世界各国、有資格者の合否の審議と育成には多大な労力と時間をかけるのです。

真の多様性と真の豊かな世界

MBTIは国際学会が2年に1度開催され、世界中から有資格者が1万人ほど集まります。MBTIを体験した人たちが集まると、人種、性別、言語、宗教、年齢、職業、学歴などの違いに気づかなくなるほどに、MBTIが“共通言語”

心

理

臨

床

家

の

養

成

金城学院大学

金城学院大学人間科学部 川瀬正裕

概要

金城学院大学は、キリスト教主義を基盤とした女子大学で、名古屋市の北東―守山区にキャンパスを構えています。学部は、人間科学部多元心理学科において公認心理師養成も行っています。

大学院は二〇〇一年に「人間生活学研究科人間発達学専攻臨床心理学分野」として正式にスタートしました。現在は公認心理師と臨床心理士の二資格の取得を前提としており、院生は一学年がほぼ七、八名という少人数となっています。入学者は本学の学部からの進学者が半数以上ですが、他大学出身者も毎年

入学しています。

心理臨床相談室は、学内の広い駐車場内に平屋で建てられており、独立性が保たれています。大学院の授業も多くは相談室内の研修会議室で行われています。教員は専任教員が二名の助教と一名の精神科医を含めて九名で、その専門領域は、発達支援、母子支援、心理査定のほか、芸術療法を中心としている教員が多いのが特徴といえます。

相談室活動

相談室は年間三〇ケース前後の新規ケースを受けつけており、主に院生と相談員として契約している修了

生が担当しています。相談室には、面接室2、集団面接室1、検査室2、プレイルーム小2、大1のほか、検

査や面接記録の保管室、資料室などがあり、院生の休養室や面接室などの記録を管理するモニタールームも



相談室全景

設置されています。また、狭い空間ではありませんが、屋外遊戯スペースも用意されています。

実習

M1の臨床心理基礎実習の半期が終わった時点から、相談室でのケースを担当することができることになっています。もちろん全ケース逐語録とクライアントが承諾した上でビデオなどをもとに、スーパーヴィジョンを受けています。また、ケースマネージメントなどを学ぶためにも相談室の運営業務も実習の一環と



面接

して課しています。

学外実習は、精神科病院、総合病院などの医療機関のほか、教育センター、附属中学のSC、企業の相談室、鑑別所などへそれぞれ半期ずつM2の一年間で行っています。その実習に際しては、実習先の指導者へ大学院から実習生の特性を評価した「申し送り票」、実習指導者が評価する「実習評価表」、院生自身の「自己評価表」をセットで用いており、臨床心理実習の指導などに活かしています。

それらの実習のほか、毎週一日近隣の公立小学校へ特別支援教育支援員として担当児童を決めて教室へ入って活動をしています。また、M1の夏休みに総合病院の発達障害を中心としたキャンプに参加しています。

研究指導

修士論文執筆の研究指導については、主の指導教員と副の指導教員の二名で指導を行っています。研究内容等によってはほかの教員が助言を行うことも少なくありません。年々公認心理師試験が早まってきて

いるので、少しずつ研究スケジュールを早めてきているところ。M2の秋に中間審査を行います。その日程も早めていくことが必要になるかもしれません。

その他就職など

院生にとっては、資格取得、修論執筆以外に就職についても大いに気になる場所です。公務員のほか、愛知県内を中心として、病院やクリニックなどの非常勤が最初の就職としては多い状況です。その後、自分の関心領域によって常勤職へステップアップしていくことがよく見られます。また、愛知県や名古屋、豊田市などのSCにも多く勤務しています。

就職支援とは少し異なりますが、修了生を対象とした研究会などを定期的に開催しており、リカレント教育として、現場へ出たからの悩みなどを相談できる雰囲気も保つようになっています。また、学会などへの発表や参加を積極的に促しており、専門職としての意識を高めたいと考えて

います。

本学の特徴

本学の特徴としては、院生全員を教員全員でケアする、という雰囲気があるのがあげられると思います。研究指導だけではなく、スーパーヴィジョンもできる限りひとりの教員に固まらないように工夫しますし、実習指導も指導教員とは関係なく担当しています。そういった雰囲気の中で院生自らが自身の課題に気づきながら成長していくことを支援しています。



プレイセラピー

愛媛大学

愛媛大学における心理臨床家の養成は、歴史と文化の町、愛媛県松山市において行っています。大学院教育学研究科心理発達臨床専攻の一年の定員は一〇名であり、二年で二〇名です。教員は特定教員二名を含む九名で組織しています。

大学院の特徴

愛媛大学は大学院に限って心理臨床家を養成しているところが特徴です（学部は教育学部であるため、教員養成に特化しています）。学部での養成をしていないこともあって学内進学者は少なく、愛媛県出身者で

県外の大学へ進学した方が、大学院修了後の県内での就職を視野に入れ、大学院から入学される場合が多い傾向にあります。その他、本学の養成プログラムに関心を持って下さった他県出身者や社会人などの入学もあります。

沿革

愛媛大学での心理臨床家養成の中心を担う、学内実習施設である心理臨床相談室の沿革は、一九九八年に発足した教育学部附属教育実践総合センターに遡ります。センター発足と同時に専任教員による相談活動を

愛媛大学大学院教育学研究科 信原孝司

理師養成も始めることになりました。
心理臨床家の養成
 愛媛大学での心理臨床家の養成は講義・演習・実習を中心としてカリキュラムが組まれています。本稿では心理臨床相談室での学内実習を中心に紹介します。

始め、二〇〇二年二月には改修工事によって心理教育相談室が完成しました。また、大学院教育は一九九九年から始まり、当初、大学院教育学研究科学校教育専攻臨床心理学分野を開設しました。二〇〇〇年度からは日本臨床心理士資格認定協会の大学院指定制度二種の指定認定を受け、二〇〇四年度からは学校臨床心理専攻に改組をして第一種の指定認定を受けました。また、二〇一七年に公認心理師法が施行される中、二〇二〇年度には心理発達臨床専攻に改組（心理教育相談室は心理臨床相談室に改組）し、大学院での公認心

本学大学院に入学した一回生（M1）は、前学期から心理臨床家の基礎的訓練にあたる講義・演習・実習科目を多く履修しますが、とりわけM1前学期の実習では心理アセスメントの基礎を学んでいきます。すなわち、心理面接・心理検査を通してクライアントに対する心理学的処遇を探索するための基礎訓練が始まります。テキストを通して基礎知識を習得し、映像視聴や大学院生同士のロールプレイを通して基本的な応答訓練を実施します。実習後半では、実際の心理面接を想定した試行カウンセリングを五回実施します。クライアント役は大学院生自ら学部学生に協力依頼します。カウンセラー役の院生は逐語記録を作成し、指導教員や同級生と詳細なケース検討を行

います。こうした基礎訓練を通して、自身の応答の癖・面接全体の流れ・クライアント理解の質等を吟味し、応答の原則と留意点を学んでいきます。試行カウンセリングを無事に終えたM1は、心理臨床相談室の実際のケースに触れる機会を得ます。ま

ず始めに、臨床心理士・公認心理師資格を持つ指導教員が担当する受理面接に陪席し、面接記録を担当しながら本番の心理面接を体験していきます。また、同じ頃、M1は自身の学外スーパーバイザー（臨床面接指導員）を決めて、実際のケース担当

に備えます。なお、学内教員は講義・演習・実習を通して臨床指導を行います。教員・学生間の多重役割をできるだけ避けるために、本格的なケース担当訓練では、学外スーパーバイザーによるスーパービジョン指導に力を入れています。

ケースカンファレンス（相談室事例検討会議）は、学内教員がオリエンテーション別に二手に分かれて実施し、毎週開催しています。M2・M1の学生は随時担当ケースの発表を行い、学内教員・相談室研究員を含めた相談室スタッフ間で詳細な検討を行います。また、学内教員も相談室スタッフとして担当ケースの発表を行い、一面接者としての視点を学生に提供します。相談室ケースのマネージメント、会の司会進行など、ケースカンファレンスは学生主体で実施しており、学生は、能動的・主体的な参加が求められます。できるだけ相談室運営へ学生を関与させることで、修了後にさまざまな領域で心理臨床家として活躍するであろう学生に、組織内の働きを学んでもら

いたい意図があります。

M2は心理臨床家養成トレーニングの仕上げとして、修士論文を提出後、相談室紀要への事例論文の執筆が課されています。修士課程二年間という限られた期間に、修士論文・事例論文二本を書き上げるにはかなりの負担が強いられます。毎年、ひとりひとりの学生がひたむきに臨床訓練に取り組み、自身の課題を乗り越え単立っていく姿を目にするたびに、頼もしく思います。

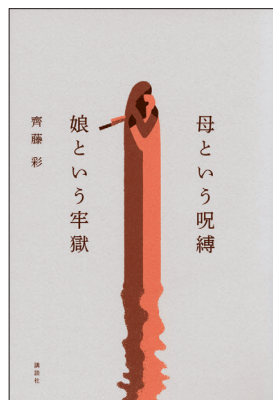
新しい歴史

愛媛大学での心理臨床家の養成の歴史は比較的新しく、これから積み上げていくべきものが多くあります。地域に貢献する心理臨床活動を日々重ね、心理臨床家を養成し続けていくことが、これからの愛媛大学の新しい歴史になっていくのだろうと思います。地域を見わたすと、心理臨床場面で愛媛大学大学院修了生が活躍する場が増えており、ここからうれしく感じています。



母という呪縛 娘という牢獄

齊藤彩〔著〕 講談社、二〇二二年



こころクリニック 門前仲町 山根亜希

頁をめくる手が止まる。ふと深呼吸を繰り返す自分に気づく。これが小説ならばどれほど救いだろうか、と束の間願う。事実は小説より怪であり壮絶な絶望にも満ちている。本著は、母子密着の二者関係で身動きがとれず、他者との繋がりが断絶され、法の一線を超えざるを得なかった親子の修羅が色濃く描かれている。

二〇一八年、滋賀県の河川敷で腐敗した遺体が見つかり、娘である高崎あかりさん（仮名）が死体遺棄等の容疑で逮捕された事件。母親の圧倒的な支配と暴力の下、彼女が医学部入学を目指して九浪を重ね、つい

に自らの手で母を殺めたニュースは記憶に新しいだろう。初公判が始まると、連日マスコミは、過剰な「教育虐待」として報道した。本著は、「通信社の記者である著者が、拘留所の彼女を訪ね、膨大な取材をもとに上梓した渾身の一冊である。」

詳細は本著に譲るが、読み進めるにつれ、息苦しさや無力感に襲われる。とはいえ、書を閉じる気にならないのは、本作の問題提起が対岸の火事とは思えないからであろう。というのも、事件化には至らずとも、似たような話は、私たちの身近なコミュニティに溢れているからだ。そうした意味で、彼女と母親を巡る確執と相克は過剰でこそあれ、周縁化された異世界ではなく、こちらと地続きの地平だといえよう。

多様性に開かれた令和でもなお、学歴偏重の信仰は根強い。母子の共同作業は小学校受験から始まり、中学受験、そして、入学と同時に大学受験の通塾が始まる。果ては、親が

就活の面接にも同行する時代だ。それは、あたかも、終着駅のない堂々巡りの旅路に似ている。どこまでもゴールがない。私たちを取り巻く社会には、そうした重圧や閉塞感が蔓延してはいないか。子どもの出来不出来は、ともすると、親の「通知表」となり、子を介しての代理戦争は過熱し、両者を追い詰めていく。

本来は、子の行く末を願う純粹な期待や愛情。そうした親心所以の起点が、どこからか捻じれ、母子関係を難しいものに変質させる。とはいえ、ここに「所属」すれば安泰という、わかりやすい片道切符を欲する心を、「親のエゴ」、「不安の投影」と一蹴しても意味がないだろう。親には親の育ちがあり、配偶者や祖父母の評価にも晒されているからだ。

一般に、加害者の被害者性は知られているが、本著の母親もまた世代間連鎖の呪縛を暗々裏に抱えている。親もまた孤独であり、不完全で切

思って、子の挫折や失敗のリスクとなる小石を取り除く。必死にだ。けれど、取り除いても次の小石は待っている。どんなに親が先回りしても、不安は回収できない。子の将来とは不確かで茫洋とした宇宙なのだから。ある時、そうした親や子が、幸いにもカウンセリングの門戸を叩く。私たちは、その心を聴く。そして、拗れた関係性の痛みや葛藤に手当てを試みる。孤独と孤立から護るために。「孤」族が安らかな家族に還れるように。

最後に、一つだけ。本著が絶望だけでなく、一縷の希望の光も宿していることを記したい。刑務所に移送された彼女は、疎遠だった父親との接見や弁護士、同囚との繋がりが、時間の力を介して心を修復していく。閉ざされた二者関係が三者関係の緒に開かれた時、彼女はこう漏らし流涙したという。「自分の味方は、周りにもたくさんいるんだ」

子どもの宇宙



京都文教大学 長谷川千紘

子どものなかにある宇宙

この宇宙のなかに子どもたちがいる。これは誰でも知っている。しかし、ひとりひとりの子どものなかに宇宙があることを、誰もが知っているだろうか。それは無限の広がりと深さをもって存在している。

臨床心理学者・河合隼雄による『子どもの宇宙』は、このような一節から始まります。私たち心理臨床に携わるものは、心理療法のなかで「子どもの宇宙」に出会うことがあ

ります。子どもの生み出す遊びや箱庭、夢などの表現の美しさや深みに触れたとき、子どものところに潜在する可能性が実現されてゆくプロセスに立ち会ったとき、自分のころもまた大きく動かされるのを感じます。このような「宇宙」はきつと誰しもが自分のなかにもっているのだけれど、大人になると、私たちは日常生活に必死になってその存在を忘れてしまいがちです。「子どもの宇宙」について、日常の役に立たないから、あるいは理解できないからと、自覚のないままにそれを見なかったことにしたり、傷つけてしまったりする大人もいるかもしれません。著者は、「子どもたちのもっている途方もなく広がる可能性、その素晴らしさを一般の大人たちに伝えたいという願いを込めて、『子どもの宇宙』について書いた」と述べています。

「子どもの目」が見る世界

本書は、「子どもの宇宙」へと入

っていくために、「家族」「秘密」「動物」「時空」「老人」「死」「異性」という七つの扉を用意しています。どの扉から入っても、「子どもの目」が見つめた世界が私たちの前に開かれます。例えば、「子どもと死」という章です。「死」は、とても悲しく、日常をおびやかしうるものです。そうであるがゆえに、大人はしばしば「知らんぷり語」を使ってやり過ぎそうとします。このようなとき子どもがまっすぐに死を見つめ、死者を弔おうとする姿が、心理療法や児童文学のエピソードを通して描かれます。著者が「死を遠ざけて生きている人は、真の心の交流を体験することは非常に難しいであろう」と述べるように、「子どもの目」を通して見たとき、「子どもと死」というテーマは、むしろ私たちがこの世界を真に生きることについて論じているように感じられるのです。

私たちのなかにある宇宙
私たちもまた子どもと同じように「宇宙」をもっていることを、著者は指摘します。

子どもの宇宙の存在について、われわれが知ろうと努力するとき、自分自身の宇宙について忘れていたことを思い出したり、新しい発見をしたりすることに。子どもの宇宙への探索は、おのずから自己の世界への探索につながってくるのである。

本書には、子どものことというばかりでなく、自分のころのことが描かれているのです。本書を読み終える頃、私たちは、自分のなかにある宇宙、自分のころのもつ無限の広がりや深さに触れる旅をしていたことに気づくのではないだろうか。

河合隼雄「著」 岩波新書、一九八七年

臨床心理士資格審査の受験資格を 取得することができる大学院

(2023年8月1日時点)

◆北海道

北海道大学大学院教育学院
札幌学院大学大学院臨床心理学研究科
札幌国際大学大学院心理学研究科
北翔大学大学院人間福祉学研究所
北海道教育大学大学院教育学研究科*

◆東北

岩手大学大学院総合科学研究科
岩手県立大学大学院社会福祉学研究科*
東北大学大学院教育学研究科
尚絅学院大学大学院総合人間科学研究科
東北福祉大学大学院総合福祉学研究科
秋田大学大学院教育学研究科
山形大学大学院社会文化創造研究科
福島大学大学院地域デザイン科学研究科
医療創生大学大学院人間科学研究科
福島学院大学大学院心理学研究科

◆関東

筑波大学大学院人間総合科学学術院人間総合科学研究群博士前期課程
常盤大学大学院人間科学研究科
作新学院大学大学院心理学研究科
東京福祉大学大学院心理学研究科
跡見学園女子大学大学院人文科学研究科
埼玉学園大学大学院心理学研究科
埼玉工業大学大学院人間社会研究科
駿河台大学大学院心理学研究科
東京国際大学大学院臨床心理学研究科
文京学院大学大学院人間学研究科
文教大学大学院人間科学研究科
立教大学大学院現代心理学研究科
早稲田大学大学院人間科学研究科
川村学園女子大学大学院人文科学研究科
淑徳大学大学院総合福祉研究科
聖徳大学大学院臨床心理学研究科
放送大学大学院文化科学研究科*
帝京平成大学大学院臨床心理学研究科**
お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科
東京大学大学院教育学研究科
青山学院大学大学院教育人間科学研究科
桜美林大学大学院国際学術研究科
大妻女子大学大学院人間文化研究科
学習院大学大学院人文科学研究科
国際医療福祉大学大学院医療福祉学研究科
駒沢女子大学大学院人文科学研究科
駒澤大学大学院人文科学研究科
上智大学大学院総合人間科学研究科
昭和女子大学大学院生活機構研究科
白百合女子大学大学院文学研究科
聖心女子大学大学院人文社会科学研究科
創価大学大学院文学研究科
大正大学大学院人間学研究科
帝京大学大学院文学研究科
東京家政大学大学院人間生活学総合研究科
東京女子大学大学院人間科学研究科
東京成徳大学大学院心理学研究科
東洋英和女学院大学大学院人間科学研究科
日本女子大学大学院人間社会研究科
日本大学大学院文学研究科
法政大学大学院人間社会研究科
武蔵野大学大学院人間社会研究科
明治学院大学大学院心理学研究科

明治大学大学院文学研究科
明星大学大学院心理学研究科
目白大学大学院心理学研究科
立正大学大学院心理学研究科

◆中部

ルーテル学院大学大学院総合人間学研究科
東京学芸大学大学院教育学研究科*
東京都立大学大学院人文科学研究科*
中央大学大学院文学研究科*
神奈川大学大学院人間科学研究科
北里大学大学院医療系研究科
専修大学大学院文学研究科
東海大学大学院文学研究科
上越教育大学大学院学校教育研究科
新潟青陵大学大学院臨床心理学研究科
新潟大学大学院現代社会文化研究科*
金沢工業大学大学院心理学研究科
仁愛大学大学院人間学研究科
山梨英和大学大学院人間文化研究科
信州大学大学院総合人文社会科学研究科
岐阜大学大学院教育学研究科
東海学院大学大学院人間関係学研究科
静岡大学大学院人文社会科学研究科
常葉大学大学院健康科学研究科
愛知教育大学大学院教育学研究科
名古屋大学大学院教育発達科学研究科
名古屋市立大学大学院人間文化研究科
愛知学院大学大学院心身科学研究科
愛知淑徳大学大学院心理医療科学研究科
金城学院大学大学院人間生活学研究科
福山女学園大学大学院人間関係学研究科
中京大学大学院心理学研究科
同朋大学大学院人間学研究科
日本福祉大学大学院社会福祉学研究科
人間環境大学大学院人間環境学研究科
鈴鹿医療科学大学大学院医療科学研究科

◆近畿

京都大学大学院教育学研究科
京都光華女子大学大学院心理学研究科
京都先端科学大学大学院人間文化研究科
京都橘大学大学院健康科学研究科
京都ノートルダム女子大学大学院心理学研究科
京都文教大学大学院臨床心理学研究科
同志社大学大学院心理学研究科
花園大学大学院社会福祉学研究科
佛光大学大学院教育学研究科
龍谷大学大学院文学研究科
帝塚山学院大学大学院人間科学研究科**
大阪大学大学院人間科学研究科
大阪公立大学大学院現代システム科学研究科
追手門学院大学大学院心理学研究科
大阪経済大学大学院人間科学研究科
大阪樟蔭女子大学大学院人間科学研究科
近畿大学大学院総合文化研究科
梅花女子大学大学院現代人間学研究科
立命館大学大学院人間科学研究科
神戸大学大学院人間発達環境学研究科
兵庫教育大学大学院学校教育研究科
関西国際大学大学院人間行動学研究科
甲子園大学大学院心理学研究科
甲南女子大学大学院人文科学総合研究科
神戸松蔭女子学院大学大学院文学研究科
神戸女学院大学大学院人間科学研究科
神戸親和大学大学院文学研究科
武庫川女子大学大学院文学研究科

奈良女子大学大学院人間文化総合科学研究科
帝塚山大学大学院心理科学研究科
天理大学大学院臨床人間学研究科
奈良大学大学院社会学研究科

◆中国

鳥取大学大学院医学系研究科
島根大学大学院人間社会科学研究科
岡山大学大学院社会文化科学研究科
川崎医療福祉大学大学院医療福祉学研究所
就実大学大学院教育学研究科
ノートルダム清心女子大学大学院人間生活学研究科
広島国際大学大学院心理科学研究科**
広島大学大学院人間社会科学研究科
比治山大学大学院現代文化研究科
広島修道大学大学院人文科学研究科
安田女子大学大学院文学研究科
山口大学大学院教育学研究科
宇部フロンティア大学大学院人間科学研究科
東亜大学大学院総合学術研究科

◆四国

徳島大学大学院創成科学研究科
鳴門教育大学大学院学校教育研究科
徳島文理大学大学院人間生活学研究科
香川大学大学院医学系研究科
愛媛大学大学院教育学研究科

◆九州

九州大学大学院人間環境学府**
九州大学大学院人間環境学府
福岡県立大学大学院人間社会研究科
九州産業大学大学院国際文化研究科
久留米大学大学院心理学研究科
西南学院大学大学院人間科学研究科
筑紫女学園大学大学院人間科学研究科
福岡女学院大学大学院人文科学研究科
福岡大学大学院人文科学研究科
西九州大学大学院生活支援科学研究科
大分大学大学院福祉健康科学研究科
別府大学大学院文学研究科
鹿児島大学大学院臨床心理学研究科**
鹿児島純心大学大学院人間科学研究科
志學館大学大学院心理臨床学研究科
◆沖縄
沖縄国際大学大学院地域文化研究科
琉球大学大学院地域共創研究科*

- 臨床心理士になるには、公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会が指定する上記大学院（以下、指定大学院）を修了し、「臨床心理士資格審査」の受験資格を取得しなければなりません。
- 臨床心理士養成大学院は「第1種指定校」「第2種指定校」「専門職大学院」の3種があります。上記一覧で*つきは第2種指定校、**つきは専門職大学院、無印は第1種指定校です。
- 第1種指定校の場合、大学院修了後に直近の試験を受験することができます。第2種指定校の場合、受験資格を得るためには修了後の実務経験1年が必要です。専門職大学院は第1種と同じ扱いですが、試験科目のうち小論文が免除されます。

◆大学・大学院 (50音順)◆

愛知学院大学心理学部、同大学院心身科学研究所
 愛知教育大学教育学部、同大学院教育学研究所
 愛知淑徳大学心理学部、心理医療科学研究科
 愛知みずほ大学人間科学部
 青山学院大学教育人間科学部、同大学院教育人間科学研究科
 秋田大学教育文化学部、同大学院教育学研究所
 跡見学園女子大学心理学部、同大学院人文科学研究科
 茨城大学人文社会科学部、同大学院人文社会科学研究所
 茨城キリスト教大学生活科学部
 医療創生大学心理学部、同大学院人文科学研究科
 岩手県立大学社会福祉学部、同大学院社会福祉学研究所
 宇部フロンティア大学心理学部、同大学院人間科学研究科
 江戸川大学社会学部
 愛媛大学大学院教育学研究科
 追手門学院大学心理学部、同大学院心理学研究科
 桜美林大学健康福祉学群/リベラルアーツ学群、同大学院国際学術研究所
 大分大学福祉健康科学部、同大学院福祉健康科学研究科
 大阪大学人間科学部、同大学院人間科学研究科
 大阪教育大学教育学部、同大学院教育学研究科
 大阪経済大学人間科学部、同大学院人間科学研究科
 大阪樟蔭女子大学
 大阪市立大学
 大阪人間科学大学心理学部、同大学院人間科学研究科
 大阪府立大学現代システム科学域、同大学院人間社会システム科学研究科
 大妻女子大学人間関係学部、同大学院人間文化研究科
 沖縄国際大学総合文化学部、同大学院地域文化研究科
 お茶の水女子大学生活科学部、同大学院人間文化創成科学研究科
 香川大学医学部、同大学院医学系研究科
 鹿児島純心大学人間教育学部、同大学院人間科学研究科
 神奈川大学人間科学部、同大学院人間科学研究科
 金沢大学人間社会学域
 金沢工業大学情報フロンティア学部、同大学院心理科学研究科
 鎌倉女子大学児童学部、同大学院児童学研究所
 川村学園女子大学
 関西大学社会学部、同大学院心理学研究科
 関西国際大学心理学部、同大学院人間行動学研究科
 関西福祉科学大学心理学部/健康福祉学部、同大学院社会福祉学研究所
 関西学院大学文学部、同大学院文学研究科
 北里大学医療衛生学部、同大学院医療系研究科
 吉備国際大学心理学部、同大学院心理学研究科
 九州産業大学人間科学部、同大学院国際文化研究科
 九州保健福祉大学臨床心理学部
 九州ルーテル学院大学文学部
 京都大学
 京都光華女子大学健康科学部、同大学院心理学研究科
 京都女子大学発達教育学部、同大学院発達教育学研究科
 京都先端科学大学文学部、同大学院人間文化研究科
 京都橋大学健康科学部、同大学院健康科学研究科
 京都ノートルダム女子大学現代人間学部、同大学院心理学研究科
 京都文教大学臨床心理学部、同大学院臨床心理学研究科
 杏林大学保健学部
 近畿大学総合社会学部、同大学院総合文化研究科
 金城学院大学人間科学部、同大学院人間生活学研究科
 久留米大学文学部、同大学院心理学研究科
 群馬医療福祉大学社会福祉学部、同大学院社会福祉研究科(2024年度より)
 健康科学大学健康科学部
 皇學館大学文学部
 甲子園女子大学心理学部、同大学院心理学研究科
 甲南大学(全学部で対応)
 甲南女子大学人間科学部、同大学院人文科学総合研究科

神戸大学国際人間科学部、同大学院人間発達環境学研究科
 神戸学院大学心理学部、同大学院心理学研究科
 神戸松蔭女子学院大学人間科学部、同大学院文学研究科
 神戸女子学院大学人間科学部、同大学院人間科学研究科
 神戸親和大学文学部、同大学院文学研究科
 駒沢女子大学人間総合学群、同大学院人文科学研究科
 埼玉学園大学人間学部、同大学院心理学研究科
 埼玉工業大学人間社会学部、同大学院人間社会科学研究科
 相模女子大学人間社会学部
 札幌学院大学心理学部、同大学院臨床心理学研究科
 志学館大学人間関係学部、同大学院臨床心理学研究科
 四国大学生活科学部
 静岡大学人文社会科学部、同大学院人文社会科学研究所
 静岡福祉大学社会福祉学部
 島根大学人間科学部、同大学院人間社会科学研究科
 就実大学教育学部、同大学院教育学研究科
 十文字学園女子大学教育文学部
 淑徳大学総合福祉学部/文学部、同大学院総合福祉研究科
 上越教育大学学校教育学部、同大学院学校教育研究科
 尚綱学院大学心理・教育学群、同大学院総合人間科学研究科
 昭和女子大学人間社会学部、同大学院生活機構研究科
 白梅学園女子大学心理学部
 白百合女子大学人間総合学部、同大学院文学研究科
 仁愛大学人間学部、同大学院人間研究科
 福山女子学院大学人間関係学部、同大学院人間関係学研究所
 鈴鹿医療科学大学保健衛生学部、同大学院健康科学研究科
 駿河台大学心理学部、同大学院心理学研究科
 聖学院大学
 聖カタリナ大学人間健康福祉学部
 聖心女子大学現代教養学部、同大学院文学研究科
 聖泉大学人間学部
 清泉学院大学人間学部
 聖徳大学心理・福祉学部、同大学院臨床心理学研究科
 西南学院大学人間科学部、同大学院人間科学研究科
 聖隷クリストファー大学社会福祉学部/国際教育学部
 専修大学人間科学部、同大学院文学研究科
 山台白百合女子大学人間学部
 創価大学教育学部、同大学院教育学研究科
 大正大学心理社会学部、同大学院人間科学研究科
 筑紫学園大学人間科学部、同大学院人間科学研究科
 中京大学心理学部、同大学院心理学研究科
 中部大学文学部
 筑波大学人間学群、同大学院人間総合科学術院人間総合科学研究群
 帝京大学文学部、同大学院文学研究科
 帝京平成大学健康メディカル学部、同大学院臨床心理学研究科
 帝塚山大学心理学部、同大学院心理科学研究科
 帝塚山学院大学人間科学部、同大学院人間科学研究科
 田園調布学園大学人間科学部、同大学院人間研究科
 天理大学人間学部、同大学院臨床人間学研究科
 東亜大学人間科学部、同大学院総合学術研究科
 東海大学文化社会学部、同大学院文学研究科
 東海学院大学
 東京家政大学文学部、同大学院人間生活学総合研究科
 東京国際大学大学院臨床心理学研究科
 東京女子大学現代教養学部、同大学院人間科学研究科
 東京成徳大学応用心理学部、同大学院心理学研究科
 東京福祉大学心理学部、同大学院心理学研究科
 東京福祉専門学校ソーシャルワーク学部
 東京未来大学こども心理学部/モチベーション行動科学部
 同志社大学心理学部、同大学院心理学研究科
 同朋大学社会福祉学部、同大学院人間学研究科
 東北学院大学教養学部/人間科学部、同大学院人間情報科学研究科
 東北大学教育学部/文学部、同大学院教育学研究科
 東北福祉大学総合福祉学部、同大学院総合福祉学研究科
 東洋英和女学院大学人間科学部、同大学院人間科学研究科
 東洋学園大学人間科学部
 徳島文理大学人間生活学部、同大学院人間生活学研究科

常葉大学教育学部、同大学院健康科学研究科
 富山大学文学部、同大学院人文社会芸術総合研究科
 長崎純心大学文学部、同大学院人間文化研究科
 長野大学社会福祉学部
 名古屋大学教育学部、同大学院教育発達科学研究科
 名古屋市立大学人文社会学部、同大学院人間文化研究科
 奈良女子大学文学部、同大学院社会科学研究科
 奈良女子大学文学部/生活環境学部、同大学院人間文化総合科学研究科
 鳴門教育大学大学院学校教育研究科
 新潟大学
 新潟青陵大学福祉心理学部、同大学院臨床心理学研究科
 新潟リハビリテーション大学医療学部、同大学院リハビリテーション研究科
 西九州大学子ども学部、同大学院生活支援科学研究科
 日本大学文学部、同大学院文学研究科
 日本女子大学人間社会学部、同大学院人間社会研究科
 日本福祉大学教育・心理学部、同大学院社会福祉学研究所
 人間環境大学心理学部/総合心理学部、同大学院人間環境学研究科
 梅花女子大学心理こども学部、同大学院現代人間科学研究科
 白鷗大学教育学部
 花園大学社会福祉学部、同大学院社会福祉学研究科
 比治山大学現代文化学部、同大学院現代文化研究科
 兵庫教育大学大学院学校教育研究科
 弘前大学医学部
 広島大学教育学部、同大学院人間社会科学研究科
 広島国際大学健康科学部、同大学院心理科学研究科
 広島修道大学健康科学部、同大学院人文科学研究科
 広島文教大学人間科学部、同大学院人間科学研究科
 福岡大学文学部、同大学院人文科学研究科
 福岡県立大学人間社会学部、同大学院人間社会科学研究科
 福島大学人間発達文化学類、同大学院人間発達文化研究科
 福島学院大学福祉学部、同大学院心理学研究科
 文教大学人間科学部、同大学院人間科学研究科
 文京学院大学人間学部、同大学院人間学研究科
 別府大学文学部、同大学院文学研究科
 放送大学教養学部
 北翔大学教育文化学部、同大学院人間福祉学研究科
 北星学院大学社会福祉学部、同大学院社会福祉学研究科
 北海道大学教育学部、同大学院教育学研究科
 北海道医療大学心理学部、同大学院社会福祉学研究所
 宮城学院女子大学学芸学部
 武庫川女子大学心理・社会福祉学部、同大学院文学研究科
 武蔵野大学人間科学部、同大学院人間社会研究科
 明治大学文学部、同大学院文学研究科
 明治学院大学心理学部、同大学院心理学研究科
 明星大学心理学部、同大学院心理学研究科
 目白大学心理学部、同大学院心理学研究科
 安田女子大学心理学部、同大学院文学研究科
 山形大学地域教育文化学部、同大学院地域教育文化研究科
 山梨梨英和大学人間文化学部、同大学院人間文化研究科
 立教大学現代心理学部、同大学院現代心理学研究科
 立正大学心理学部、同大学院心理学研究科
 立命館大学総合心理学部、同大学院人間科学研究科
 琉球大学文学部、同大学院地域共創研究科
 龍谷大学文学部、同大学院文学研究科
 ルーテル学院大学総合人間学部、同大学院総合人間学研究科
 早稲田大学人間科学部、同大学院人間科学研究科
 和洋女子大学文学部

◆公認心理師法第7条第2号に規定する認定施設
弘前愛成会病院

●本一覧は、一般社団法人日本公認心理師養成機関連盟に加盟している大学・大学院等(学部等名・研究科等名まで)、及び、認定施設です。ただし、改組等で学科名・研究科名が変更になっている場合もあります。詳細は、連盟のホームページに掲載されています。



第33号にあたる次号の「心理臨床の広場」が刊行されるのは、2024年9月頃の予定なので、ちょうど日本心理臨床学会第43回大会が横浜とWEBで開催されている頃です。第43回のテーマは、「一人一人の心が生きる社会に向けてー機能する心理臨床とはー」です。現在、日本だけでなく、世界各国で様々な事件・事故が起こったり、人権が踏みじられるような出来事を体験したり、気が付かないうちに傷つけたり、傷つけられたり、そんな悲しい出来事が起こっています。私たちの心はたくさんストレスを受けていると思います。そんなときこそ、心理臨床が必要となります。それが今大会のテーマでもあると思っています。実際にカウンセラーやセラピストに会いにいかなくても、まずは、本誌のような雑誌から心理臨床の扉を開いてみて、少しでも心理臨床について知ってもらいたいです。

今号の1つ目の特集は、「様々な家族のカタチ」です。「伝統的な家族制度」が大事だの、崩れるだの、どうのこうの言っている人もいましたが、現在は様々な家族の形があり、それぞれ家族としての機能を果たしており、それぞれ幸せに暮らしています。そんな様々な家族のカタチを紹介しています。2つ目の特集は、「コミュニケーションツールと面接」です。カウンセリン

グの面接は1対1の対面が基本でしたが、技術の発展とともに、また感染症の拡大とともに、対面以外の面接方法が急激に広まってきました。SNS、ビデオ、メールなど、様々なツールを使った面接について、その特徴などを紹介しています。3つ目の特集は「LGBTQ+」です。LGBTQや性的マイノリティという言葉はかなり知られるようになりましたが、それぞれレスビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダーについて詳しくわかっていない人は未だ少ないのではないかと思います。この特集では、心理臨床の専門家ではない人々に役立つように様々な性のあり方があるということを知ってもらおうと思っていました。自分の性別や好きになる対象について「あれ?」と多数派と違うと感じている人や、周りや支援する人にLGBTQ+の人にとって役立つ内容を集めてみました。本誌の作成には多くの方々のお力を借りしました。広報・編集委員の皆様、学会員の皆様、創元社様、ありがとうございます。(広報委員長 葛西真記子)

事務局だより

2023年度は、新型コロナウイルス感染症が、季節性インフルエンザなどと同じ5類感染症に移行し、人々の生活上の制限が解け、街に活気が戻ってきました。相変わらず様々な感染症が流行っており、油断はできませんが、生活上の衛生・予防の習

慣は、ここ数年の経験から、社会的にもかなりの進化を遂げました。私たちは、同じところにただ戻ってきたわけではなく、今まさに、未来に向けて進みつつあるように思います。

本学会の運営も同様に、コロナ渦中では、対面による委員会が全くなりませんでしたし、学術大会も、急遽web大会となりました。それでも、その後3年の間に、web大会と対面大会の2つを行う方式を確立してきました。

昨年は、「心理臨床学の新たな多様性を拓く」のテーマの下、横浜で対面大会、その後引き続きweb大会を開始し、多くの参加者が集まり、様々なプログラムを体験することができました。

本誌で紹介されている今年度の大会では、「一人一人の心が生きる社会に向けてー機能する心理臨床とはー」をテーマに、準備が進められているところです。今大会では、対面大会に会員同士の交流プログラムが加

わり、web大会では、開催期間が延長される等、これまで以上にさらに充実した内容となるよう、工夫されています。

本誌の読者には、高校生を始め、心理臨床に関心のある非会員の方々が多くおられます。学術大会は、原則会員のみ参加できるものとなっており、直接会場にお誘いすることができないので、残念です。それでも、学会のホームページでは、本誌のバックナンバーを始め、心理臨床に関心のある方向けに、様々な紹介動画がアップされています。オープンアクセスできるトピックも沢山ありますので、ご関心のある方はどうぞ、日本心理臨床学会の公式サイトをご覧ください。最後になりましたが、会員の皆様には、こ

れまでも大会、学会の運営に関して、沢山のご理解と励まし、ご協力を頂戴しましたこと、厚く御礼申し上げます。引き続き今大会もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。(財務担当理事/大会委員長 青木紀久代)

心理臨床の広場 32

Vol.17 No.1
2024年4月1日発行

- 広報委員 葛西真記子 松下 姫孝 歌明
岩倉 拓 山崎 孝
- 編集委員 池田 志保 長谷川 千紘 絃佐 映祐 史衣子 亮江
出野 智博 樋口 野 大貴 瑠 領 中 淑
坂元 龍太郎 山吉 嘉 堀 田 中
津山 悠芽 子 香 行 希
永中 西野 忠 亜
橋本 根
- 協力委員 山根

● 編集協力 / 製作 株式会社創元社
〒541-0047 大阪市中央区淡路町 4-3-6
TEL 06-6231-9010

● 発行 一般社団法人 日本心理臨床学会
〒100-0006 東京都千代田区有楽町 2-10-1
東京交通会館 5階
TEL 03-6273-4061 FAX 03-5223-2755
ホームページ URL <https://www.ajcp.info/>

● 印刷製本 株式会社太洋社

次回予告 (2024年9月発行)